

学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史 a	佐野 好則
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 西洋古代中世の哲学史を、代表的な哲学者の思想に即して概観すること。</p>	
<p><授業の概要> 西洋古代中世の代表的な哲学者の著作の抜粋を精読することを通して、各哲学者の思想の特長や相互の関連性を理解する。</p>	
<p><履修条件> 学部 1, 2 年を主な対象学年とする。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学の始まり 2. ソクラテス以前の哲学者達(1)ーイオニアの自然哲学 3. ソクラテス以前の哲学者達(2)ーヘラクレイトス、パルメニデス、ピタゴラス学派 4. ソクラテス以前の哲学者達(3)ーエムペドクレス、アナクサゴラス、原子論 5. ソフィスト達とソクラテス 6. プラトンの哲学。イデア論 7. アリストテレスの哲学 8. ストア派、エピクロス派、懐疑主義 9. プロティノス 10. アウグスティヌス(1)ー新プラトン主義の影響 11. アウグスティヌス(2)ー時間論、内なる教師 12. アンセルムス 13. 唯名論と実名論 14. トマス・アキナス 15. 神学における哲学の受容 	
<p><準備学習等の指示> 各哲学者の著作の抜粋を読んでくることが予習として課される。</p>	
<p><テキスト> 毎回資料を配布する。</p>	
<p><参考書> A.H.アームストロング『古代哲学史』みすず書房、1989年 内山／中山編『西洋哲学史、古代・中世篇』ミネルヴァ書房、1996年 熊野純彦『西洋哲学史、古代から中世へ』岩波新書、2006年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席が 2/3 に満たない者は評価の対象としない。 レポート提出による。</p>	

学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史 b	田中 敦
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>様々な哲学説を学ぶことを通じて哲学一般の基礎的な理解を目指すとともに、現代という時代また現代思想の基盤・背景として西洋近世哲学の基本的全体的な特徴と課題の理解を目指す。特に神学、キリスト教思想との関連において哲学の歴史とその理解のもつ意味を考えることを目標にしたい。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>近世以後の西欧の哲学の諸学説について、特に経験論と合理論の基本的な違い、それぞれの正当な根拠、両者を統合したカント哲学の理解を得た上で、カント以後の哲学の主要な哲学者の考えも辿る。それと共に、哲学の基本的な概念、例えば実体、属性、観念などの意味の正確な理解を期す。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特にありません。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学とはどういうものか。それは信仰、神学の理解にとってどのような意味を持ち得るか。近世ヨーロッパの哲学の概観とその特徴、現代の哲学の状況。 2. 過渡期の哲学としてのルネサンス哲学（プラトン主義の復興、アリストテレス哲学の復興、人文主義）。 3. 17世紀の哲学の二大潮流（英国経験論と大陸合理論）。フランシス・ベーコン。学問の革新と新しい認識の方法（イドラ批判と帰納法）。 4. デカルト1.（生涯、方法の探究と懐疑、実体の意味）、普遍的な方法的懐疑と合理的体系。 5. デカルト2.（精神と物体の二元論、心身合一の難問、情念と道徳）。 6. パスカル（理性と心情、三つの秩序）と機会原因論（心身の関係について）。 7. スピノザ（感情の奴隷から自由な存在へ、認識の三段階、神即自然の一元論）。 8. ライブニッツ（実体の多元論、モナドと予定調和説、二つの原理と二種類の真理）。 9. イギリス経験論の流れとロック（心は白紙、実体の複雑観念、抽象一般観念）。 10. バークレー（抽象一般観念の否定、物体の存在は知覚されること）、ヒューム（因果関係の客観性の否定、二種類の関係と観念連合、知覚の束）。 11. カントの批判哲学（アプリアリな総合的判断、コペルニクス的転回、現象と物自体、二律背反、実践理性の優位、定言命法）。 12. ドイツ観念論の哲学、フィヒテ（知識学、事行）、シェリング（同一哲学、人間の自由）。 13. ヘーゲル（弁証法、精神現象学、理性の狡知、歴史哲学）。 14. ヘーゲル以後の哲学の展開、キェルケゴール（実存の三段階）とニーチェ（超人と永劫回帰、ニヒリズム）。 15. ニーチェ以後と現代の哲学の展開（新カント派、実証主義、プラグマティズム、分析哲学、現象学）。 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>予め配布する資料を読んでおくことが授業内容の理解を助けるので、少なくとも目を通して、理解の難しい点、疑問点などをチェックして出席して欲しい。</p>	
<p><テキスト></p> <p>事前に資料を配布し、その内容の理解を中心として講義を進めます。</p>	
<p><参考書></p> <p>原佑、井上忠、杖下隆英、坂部恵『西洋哲学史 {第三版}』東京大学出版会、1988年 岡崎文明、日下部吉信他著『西洋哲学史』昭和堂、1994年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>レポートの評価を基にして、授業への積極的な参加態度と発言の評価を加える。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・人文科学系	
キリスト教と世界史 a	棟居 洋
前期・2単位	<登録条件>同科目 b と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教が世界史の流れの中でどのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果たしたかを学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> キリスト教の歴史を古代ローマ帝国末期から近代初頭まで辿り、キリスト教が世界史の中でどのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果たしてきたかを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 高校における世界史の履修が望ましい。未履修者には、独習を求める。学部1年次で履修すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 人間と時間、歴史とその解釈、キリスト教の歴史観について学ぶ。 古代ローマ帝国の二分化によるビザンティン文明とラテン文明の成立(1) 地中海世界の二分化と東方教会、ビザンティン文明について学ぶ。 古代ローマ帝国の二分化によるビザンティン文明とラテン文明の成立(2) 西方教会、ラテン文明について学ぶ。 中世キリスト教世界とイスラム教世界(1) 教皇権と皇帝権の関係、修道院制度の展開を中心に学ぶ。 中世キリスト教世界とイスラム教世界(1-2) 修道院改革、中世の文化について学ぶ。 中世キリスト教世界とイスラム教世界(2) イスラム教世界の出現と発展、イスラム文化、そのキリスト教世界への影響について学ぶ。 東西文化の出会い 十字軍とそのキリスト教世界への影響について学ぶ。 ルネサンスと宗教改革(1) ルネサンスについて学ぶ。 ルネサンスと宗教改革(2) ローマ・カトリック教会内の改革と先駆的宗教改革について学ぶ。 宗教改革の世界史的意義(1) ルター、ツヴィングリ、再洗礼派の宗教改革について学ぶ。 宗教改革の世界史的意義(2) カルヴァンの宗教改革について学ぶ。 17世紀のヨーロッパ世界 宗教改革期と啓蒙主義の間の宗派对立の動向について学ぶ。 キリスト教世界の拡張(1) 対抗宗教改革とローマ・カトリック教会の海外伝道について学ぶ。 キリスト教世界の拡張(2) イングランド・スコットランドの宗教改革、ピューリタニズムとプロテスタント諸教会の海外伝道について学ぶ。 まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 必ず復習をして授業に臨むこと。</p>	
<p><テキスト> 特定の教科書は使わない。必要な資料は授業時に配布する。</p>	
<p><参考書> 学年初めと授業時にその都度紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポートによって最終評価を行なう。出席回数が全授業回数の2/3に満たない者にはレポート提出資格を認めない。</p>	

学際基礎科目・人文科学系	
キリスト教と世界史 b	棟居 洋
後期・2単位	<登録条件>同科目 a と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教が世界史の流れの中で、どのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果たしたかを学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> キリスト教の歴史を近代はじめから現代まで辿り、キリスト教が世界史の中で、どのような歴史・文化形成力を発揮し、どのような役割を果たしたかを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> キリスト教と世界史 a を履修した者が、学部 1 年次で履修すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 啓蒙主義とキリスト教(1) 自然科学の発達、啓蒙思想について学ぶ。 2. 啓蒙主義とキリスト教(2) 理神論、敬虔主義、自然科学とキリスト教の関係について学ぶ。 3. 民主主義とキリスト教(1) 民主主義の意味、民主主義の歴史的背景について学ぶ。 4. 民主主義とキリスト教(2) 民主主義の精神的基盤、民主主義の問題性について学ぶ。 5. 資本主義、社会主義とキリスト教(1) 興隆期の資本主義とキリスト教との関係について学ぶ。 6. 資本主義、社会主義とキリスト教(2) 産業革命から帝国主義段階の資本主義とキリスト教との関係、社会主義の台頭について学ぶ。 7. 資本主義、社会主義とキリスト教(3) 社会主義とキリスト教との関係、キリスト教社会主義、宗教社会主義について学ぶ。 8. 現代思想とキリスト教(1) 現代思想のうち、実証主義、進化論、精神分析について学ぶ。 9. 現代思想とキリスト教(2) 現代思想のうち、実存主義、プラグマティズム、新ヒューマニズムについて学ぶ。 10. 現代思想とキリスト教(3) 近・現代のキリスト教思想と運動のうち、シュライアマハーの思想、ドイツ観念論、自由主義神学、トレルチの思想などについて学ぶ。 11. 現代思想とキリスト教(4) 近・現代の思想のキリスト教の思想と運動のうち、キルケゴールの思想、オクスフォード運動、バルト神学、テンブル、ニーバー、ボンヘッフアー、ティリッヒなどの神学思想を学ぶ。 12. キリスト教とこれからの世界(1) 現代世界の特質について学ぶ。 13. キリスト教とこれからの世界(2) 現代世界の諸問題について学ぶ。 14. キリスト教とこれからの世界(3) 現代世界におけるキリスト教の革新、これからの世界においてキリスト教が果たすべき役割などについて学ぶ。 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 必ず復習をして授業に臨むこと。</p>	
<p><テキスト> 特定の教科書は使わない。必要な資料は授業時に配布する。</p>	
<p><参考書> 授業時にその都度紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポートによって最終評価を行なう。出席回数が全授業回数の 2/3 に満たない者にはレポート提出資格を認めない。</p>	

専門教育科目・学際基礎科目	
キリスト教と芸術 1 美術史 a	真下 弥生
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 美術（視覚芸術表現）を、自らの目や視覚以外の感覚をも動員して、多角的・批判的に分析する視点を培う。</p>	
<p><授業の概要> 美術（視覚芸術表現）研究における多様なアプローチ方法を、実習を交えながら学ぶ。キリスト教に関わる美術作品のみならず、他宗教、非宗教美術の作品も幅広く比較しながら、広い視野で作品を分析する。</p>	
<p><履修条件> 高校レベルの歴史（世界史、日本史、他）の学習経験があることが望ましいが、未履修者も歓迎する。</p>	
<p><授業計画>（予定。受講生の関心に合わせて変更する可能性もある）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、「美術」とは何か 2. 美術表現の多様性、「キリスト教美術」とは何か 3. 美術表現の分析 1：観察 4. 美術表現の分析 2：主題 5. 美術表現の分析 3：歴史・社会背景 6. 美術表現の分析 4：素材と技法 7. 美術表現の分析 4-1：キリスト教世界の美術で発達した素材と技法について 8. 美術表現の分析 5：コンテキスト・文脈、「見せ方」について 9. 美術表現の分析 6：総合演習 10. 美術とことば：人文系論文・レポート記述の概説 11. 三次元表現（彫刻）1：三次元表現の持つ特性 12. 三次元表現（彫刻）2：宗教美術と彫刻 13. 美術としての建築 1（教会建築） 14. 美術としての建築 2（教会建築） 15. まとめ・総括 <p>また、講義期間中、近隣の美術館・博物館を訪問し、作品を見ながら講義を行うことを検討している。日程は受講生と相談しながら決定したい。</p>	
<p><準備学習等の指示> 特に指定しないが、好奇心と柔軟な思考をもって、授業に臨んでほしい。休日等に、美術館や芸術表現に親しむこともよい。また、授業を通して、学問的誠実性（academic integrity）の姿勢を培うことを期待する。</p>	
<p><テキスト> なし（講義ではスライドを映写し、必要に応じてプリントを配布する）</p>	
<p><参考書> 講義内で指定する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出欠および総括、美術展のレポートを総合して評価する。出席が全体の 2/3 に満たない場合は、評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・学際基礎科目	
キリスト教と芸術 1 美術史 b	真下 弥生
後期・2単位	<登録条件>前期 a の履修が望ましいが、未履修者も可
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教に関わる文化の諸相を、美術（視覚芸術表現）を注意深く分析することを通して探求する。</p>	
<p><授業の概要> 前期で学んだ視覚芸術表現の分析手法を応用しながら、キリスト教世界の文化、その底流に流れるメンタリティを、美術表現を通して探ってゆく。日本をはじめとする非欧米圏の美術や、伝統的な美術表現の枠を更新・横断する現代美術も取り上げ、グローバル化の進む近現代社会におけるキリスト教の姿をも検討する。</p>	
<p><履修条件> 高校レベルの歴史（世界史、日本史、他）の学習経験があることが望ましいが、未履修者も歓迎する。</p>	
<p><授業計画>（予定。受講生の関心・後期からの新規受講生の状況に合わせて変更する可能性もある）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、前期講義の概説 2. 時の流れ：西欧キリスト教美術史概説 3. キリスト教美術の誕生 4. 空間の中の美術：キリスト教会の中の造形表現 5. 応用美術：キリスト教文化の中の工芸 6. 日本のキリスト教美術 1 7. 日本のキリスト教美術 2 8. 物語と美術 1：視覚芸術表現を通して物語を語るということ、旧約聖書物語 9. 物語と美術 2：旧約聖書、聖人伝説 10. 物語と美術 3：新約聖書（イエスの生涯） 11. 物語と美術 4：降誕物語 12. 非欧米圏のキリスト教美術 13. 現代美術とキリスト教 1 14. 現代美術とキリスト教 2 15. まとめ・総括 <p>また、講義期間中、近隣の美術館・博物館を訪問し、作品を見ながら講義を行うことを検討している。日程は受講生と相談しながら決定したい。</p>	
<p><準備学習等の指示> 特に指定しないが、好奇心と柔軟な思考をもって、授業に臨んでほしい。休日等に、美術館や芸術表現に親しむこともよい。また、授業を通して、学問的誠実性 (academic integrity) の姿勢を培うことを期待する。</p>	
<p><テキスト> なし（講義ではスライドを映写し、必要に応じてプリントを配布する）</p>	
<p><参考書> 講義内で指定する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出欠および総括、美術展のレポートを総合して評価する。出席が全体の 2/3 に満たない場合は、評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権 1 法学概論	佐々木 高雄
前期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ>法律や『六法全書』への嫌悪感を払拭し、「まずは、自分で考えてみよう」との意欲を懐き、論理的な思考に馴染めることを目的とする。</p>	
<p><授業の概要>「人が定めた規則を、なぜ『法律』として評価し、従わなければならないのか」との問題を考えたい。市民生活に必要な法律上の知識を——ほんの一部にとどまるが——修得しながら、その背後に潜む原理を探りたい。</p>	
<p><履修条件>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法と法律の異同／正義の女神が持つ「秤と剣」の意味／ノート取り方 2. 法律解釈の方法／「可能な解釈」と「採るべき解釈」／本の読み方 3. 出生にかかわる法律（権利能力／自然人と法人）／レポートの書き方 4. 基礎的事項（一般法と特別法／年齢の教え方と期間計算法／条件と期限） 5. 未成年者に対する保護法制（行為能力① 未成年者でも出来ること） 6. 老人に対する保護法制（行為能力② 成年後見制度） 7. 婚姻にかかわる法律 8. 離婚にかかわる法律 9. 遺産相続にかかわる法律 10. 財産（物権）にかかわる法律①（物権と債権の異同／物権にかかわる原則） 11. 財産（物権）にかかわる法律②（所有権の特質／相隣関係） 12. 財産（物権）にかかわる法律③（所有権の取得） 13. 財産（債権）にかかわる法律①（身分から契約へ／契約にかかわる原則） 14. 財産（債権）にかかわる法律②（債権の保全と担保） 15. 犯罪と刑罰について／まとめ 	
<p><準備学習等の指示>授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するならば、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。</p>	
<p><テキスト>特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。</p>	
<p><参考書>一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が1／3を超える者は、評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権2 日本国憲法	佐々木 高雄
後期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ>各自が囚われず、憲法問題の本質を、実証的な知識に基づいて、自分の頭で検討できるようにすることを目的とする。</p>	
<p><授業の概要>制憲史的手法を活用し、できるかぎり客観的な事実を確認しながら、憲法という規範の解釈に努め、人権問題を中心に、「憲法に盛り込まれた理念」と「現実の姿」とを、対比して検討する。</p>	
<p><履修条件>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法とは何か？ 2. 明治憲法の制定／明治憲法の特徴 3. 日本国憲法の制定①（ポツダム宣言からマッカーサー・ノートまで＝新憲法の基盤・背景） 4. 日本国憲法の制定②（マッカーサー草案＝民主化のための作業） 5. 日本国憲法の制定③（日本側の作業＝旧い価値観／議会における審議手続） 6. 制定された憲法の特徴／国民主権（象徴天皇制との関わりのもとに） 7. 平和主義①（「第九条」の解釈／前文・第2段／第66条第2項） 8. 平和主義②（「第九条」をめぐる裁判例／平和的生存権） 9. 人権尊重主義／人権に関わる一般原則（臣民の権利と人権／抵抗権／公共の福祉） 10. 平等権（信条による差別＝憲法の私人間効力／性差別／尊属殺重罰規定／一票の重みの違い） 11. 宗教の自由（信教の自由／政教分離原則） 12. 表現の自由（知らせる自由／知る自由／知られたくない自由） 13. 経済的自由権 14. 身体的自由権（法定手続の保障／令状主義）／他の人権（社会権など） 15. 統治機構／まとめ 	
<p><準備学習等の指示>授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するならば、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。</p>	
<p><テキスト>特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。</p>	
<p><参考書>一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が1／3を超える者は、評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・自然科学系	
生命の理解とバリエーション a	加藤 義臣
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>現代の生物学および関連分野は生命をどう理解しているのかを学ぶ。 特に生命のしくみとその有り様について、遺伝子や進化の観点から講義する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>生物学の最近の進歩は生命をどう明らかにしてきたか、ミクロのみならずマクロのレベルからもその概要を講義する。さらに、その知識自身に留まらず、それがどのように探求されてきたか、また研究の背景や科学の手法についても言及する。</p>	
<p><履修条件></p> <p>後期コースの履修を希望する学生は前期コースを履修することが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命とは何か？ 2. 生命の基本単位としての「細胞」 3. 細胞の構造と機能 4. 遺伝物質 DNA の世界：メンデルの遺伝法則 5. 遺伝子 DNA の構造と働き（1） 6. 同上（2） 7. 生命の発生とその連続性 8. 生物の行動と生存戦略 9. 同上（2） 10. 同上（3） 11. 生命の多様性と生物保全 12. 生命の進化と自然淘汰 13. ヒト（ホモ・サピエンス）その出現と進化、 14. ヒト（2）生態系における位置 15. まとめと討論 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>特になし</p>	
<p><テキスト></p> <p>作成したプリント・資料を中心に講義を進める。テキストは特に定めない。</p>	
<p><参考書></p> <p>必要に応じて参考図書を随時紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>試験結果を基に評価する。レポートを課すこともある。出席が2／3に満たない場合は評価の対象にしない。</p>	

学際基礎科目・自然科学系	
生命の理解とバイオエシックスb	加藤 義臣
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>現代の生命科学が明らかにした生命観・人間観は我々に何を問いかけているのかを理解すること。特に生命倫理に焦点を当てて講義と討論を行う。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>現代の生命科学の成果は人間理解や人間社会にどのようなインパクトを与えるに至ったか。前半は、主として生命倫理（バイオエシックス）に関わる諸問題とその基礎知識を、講義により理解する。後半は、個人またはグループごとに興味ある問題を設定し、資料などを学習し問題点を整理し発表する。最後に、全体討論を行う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>前期コースを履修していることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>（前半：講義）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：遺伝子組み換え 2. 講義：遺伝子治療 3. 講義：再生医療 4. 講義：臓器移植 5. 講義：生殖技術（1） 6. 講義：生殖技術（2） 7. 講義：環境倫理など <p>（後半：グループ学習と討論 — 上記の問題を資料より学び、グループ発表する。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. グループ発表と討論：遺伝子組み換え 9. グループ発表と討論：遺伝子治療 10. グループ発表と討論：再生医療 11. グループ発表と討論：臓器移植 12. グループ発表と討論：生殖技術（1） 13. グループ発表と討論：生殖技術（2） 14. グループ発表と討論：環境倫理 15. まとめの講義と討論 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>作成したプリント・資料を中心に講義を進める。テキストは特に定めない。必要に応じて参考書を随時紹介する。</p>	
<p><参考書></p> <p>生命倫理に関する書物をいくつか紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>発表の仕方や討論への参加度、および最終レポートに基づいて評価する。出席が2／3に満たない場合は評価の対象にしない。</p>	

学際基礎科目・情報科学系	
情報基礎	石部 公男
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「情報社会」にあつて、主にコンピュタリテラシーに重きを置きながら、情報そのものの本質とコンピュータの基本的仕組みを理解させる。さらにワード、エクセル、パワーポイントなどのアプリケーションソフトの使用方法を実習を中心としながら、その利用技術の基礎を習得する。</p>	
<p><授業の概要> 実習に重きを置きながら、基本的アプリケーションの利用技術を習得し、さらにインターネットの仕組みと、関連領域の知識についての講義。</p>	
<p><履修条件> 特に制限はない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報とは何か。資料（データ）と情報（インフォメーション） 2. コンピュータの歴史とインターネット 3. パソコンの概要とオペレーティング・システム 4. アプリケーションソフト（ワード・・・1） 5. アプリケーションソフト（ワード・・・2） 6. アプリケーションソフト（ペイントの利用） 7. アプリケーションソフト（エクセル・・・1） 8. アプリケーションソフト（エクセル・・・2） 9. アプリケーションソフト（エクセル・・・3） 10. アプリケーションソフト（パワーポイント・・・1） 11. アプリケーションソフト（パワーポイント・・・2） 12. アプリケーションソフト（パワーポイント・・・3） 13. コンピュータ・言語と HTML 14. HTML とホームページ・・・1 15. HTML とホームページ・・・2 	
<p><準備学習等の指示> できるだけタイピングの練習をしておくが良い。</p>	
<p><テキスト> 特に指定はしないが、ヴェリタス書房の「情報リテラシー概論」石部公男 他著を読んでおくことを薦める。</p>	
<p><参考書> 「インターネット時代のプログラミング」ヴェリタス書房 石部公男・森秀樹監修</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 平常点（50%）、提出物（50%）の合計 100%で評価。</p>	

神学基礎科目	
キリスト教通論 I	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件>学部一年生は必修
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神学のある教会生活について学びながら、神学的実存の形成に備えさせる。</p>	
<p><授業の概要> 神学以前としての教会生活が重大な意味を持っているので、教会生活の要点を学び、各自の神学学習に備えさせる。</p>	
<p><履修条件> 参加意識、学習意欲を持って学ぶこと。</p>	
<p><授業計画> 第一回： 神学と教会生活 第二回： 伝道と神学 第三回： 『教会生活の要点』 1の(1)「教会生活の鍵」 第四回： 『教会生活の要点』 1の(2)「伝道的教会と伝道的信仰」 第五回： 『教会生活の要点』 2の(1)「洗礼」 第六回： 『教会生活の要点』 2の(2)「聖餐」 第七回： 補充、質疑など 第八回： 中間の総括 第九回： 『教会生活の要点』 3の(1)「信仰告白と信仰生活」 第十回： 『教会生活の要点』 3の(2)「信仰告白と教会形成」 第十一回： 補充、質疑など 第十二回： 『教会生活の要点』 4の(1)「祈りの意味」 第十三回： 『教会生活の要点』 4の(2)「讃美歌の意味」 第十四回： 『教会生活の要点』 4の(3)「献金の意味」 第十五回： 総括</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストを読んで参加すること。</p>	
<p><テキスト> 近藤勝彦『教会生活の要点』(第二版、東神大パンフレット 38、2010年)(学生各自で購入する)</p>	
<p><参考書> 近藤勝彦『福音主義自由教会の道』(教文館、2009年)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席と参加の状況、発表、小試験によって評価する。</p>	

神学基礎科目	
キリスト教通論Ⅱ	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 学部一年の学生が対象。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神学をするとはどういうことかを、基本的な神学主題に即して身につける。</p>	
<p><授業の概要> A.マクグラス『神学によるこび』のテキストを用いて、使徒信条の主要項目を順番に組織神学的に考察していく。最後に、古典的なテキストとしてカルヴァンの『キリスト教綱要』第3篇を読む。</p>	
<p><履修条件> 原則としてキリスト教通論Ⅰを履修していること。</p>	
<p><授業計画> 第1回：授業の目的、テキストの特色、授業の進め方についてオリエンテーションを行う。 第2回：神学序説の課題について考察する。 第3回：信仰の本質について考察する。 第4回：神について、今日キリスト教神学において何が言われるべきかを考察する。 第5回：創造について、聖書的な語りの特徴を考察する。 第6回：イエスについて、特にキリスト論成立に関わる諸問題を考察する。 第7回：救いについて、聖書的語りの特徴と教会史的な展開を顧みる。 第8回：三位一体の教理の成立について考える。聖霊論をここで扱う。 第9回：教会について、なぜそれがキリスト教にとって不可欠であるのかを考察する。 第10回：神の国、歴史の終末、個人的な生の終末の問題を考察する。 第11回：カルヴァンの『キリスト教綱要』第3篇6章から8章までを読む。 第12回：カルヴァンの『キリスト教綱要』第3篇9章から11章までを読む。 第13回：カルヴァンの『キリスト教綱要』第3篇12章から14章までを読む。 第14回：カルヴァンの『キリスト教綱要』第3篇15章から17章までを読む。 第15回：どこまで授業の目的が達成されたかを検討し、総括を行う。</p>	
<p><準備学習等の指示> あらかじめ指定されたテキストの箇所を読んできて、授業の中で積極的に発言してもらう。</p>	
<p><テキスト> A.マクグラス『神学によるこび』キリスト新聞社、2005年。授業の最初に担当者が配布する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業で扱った主題の中から一つを選んで内容を掘り下げ、レポートを作成し、提出してもらう。</p>	

神学基礎科目	
聖書通論 1 旧約通論	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ> 「聖書の基礎知識」あるいは「聖書入門」の旧約篇である。	
<授業の概要> 旧約聖書のどこに何がどのように書いてあるかを概観し、またテキスト間の関連を把握する。同時に、聖書を学問的に読むとはどのようなことかを考え、その作業の出発点としたい。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「聖書とは何か、聖書を学問的に読むとはどういうことか」： わたしにとって、教会にとって旧約聖書とは何か、世の中の人々は旧約聖書を何だと思っているかを話し合う。そのうえで、聖書を学問的に読むとはどういうことか、検証可能性とは何かということを考える。 2. 「旧約聖書の形」： ユダヤ教正典と旧約聖書、新約聖書と旧約聖書、旧約聖書の区分を確認する。 3. モーセ五書 創世記：創世記の内容を概観する。よく知られた箇所を読む。 4. モーセ五書 出エジプト記～民数記：重要箇所とその関連箇所を探し出し、意味を考える。 5. モーセ五書 シナイ山と法：なぜモーセ五書は「律法」と呼ばれるのかを考える。 6. モーセ五書と預言者：申命記と申命記的歴史を概観し、五書の結びが申命記であることの意味、そしてモーセが預言者とされていることの意味を見出だす。 7. 申命記的歴史と歴代誌的歴史：歴史とは、別の視点から異なった歴史を描きうるものだということを知り、聖書のなかにある歴史の「異読」を比較する。 8. 諸文学 知恵文学：ヨブ記、箴言、コヘレト（伝道の手紙）の思想を解説する。 9. 諸文学 知恵と律法：知恵文学の中にある法の讃美について考える。 10. 諸文学 詩と詩編：詩の読み方を概説する。 11. 預言書 歴史書の預言者と預言書の預言者、十二小預言書：ユダヤ教正典第二部を概観する。 12. 預言書 イザヤ書：イザヤ書の形とその背後にある歴史を解説する。 13. 預言書 エレミヤとエゼキエル：王国末期から捕囚期にかけての預言者を知る。 14. 黙示文学：旧約聖書の中に散在する黙示文学的なテキストを見いだす。 15. まとめと知識の再確認 	
<準備学習等の指示> 旧約聖書を自分で通読すること。また、授業で指摘された重要箇所を暗誦すること。	
<テキスト> 聖書（自分の教会で用いられているもの）	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と、期末の小レポートによって評価する。理由なく授業を三分之一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。	

神学基礎科目	
聖書通論 2 旧約時代史	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約時代史を概観し、旧約聖書の信仰の特質を考える。旧約の基本的知識を歴史という軸において通観することによって、旧約を立体的に捉える。</p>	
<p><授業の概要> カナン定着以前からローマ時代に至る旧約の時代史を辿る。テキストを用い、学生に毎回発表していただく。</p>	
<p><履修条件> 学部1年次に履修すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 旧約の歴史を学ぶということ 3. カナン定着以前の時代 4. カナン定着 5. 統一王国時代の前半（サウルとダビデ） 6. 統一王国時代の後半（ソロモンと王国分裂） 7. 北王国の歴史（イエフ王朝まで） 8. 北王国の歴史（イエフ王朝以後） 9. 南王国時代（ヨシア王まで） 10. 南王国時代（ヨシア王以後） 11. バビロン捕囚時代 12. ペルシャ時代 13. ヘレニズム時代 14. ローマ時代 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 授業と並行して自分で旧約聖書を全部通読すること。</p>	
<p><テキスト> 樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』、教に本基督団出版局、1800円。各自用意すること。</p>	
<p><参考書> 山我哲雄『聖書時代史・旧約編』（岩波現代文庫）も併用する。そのほかは授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と筆記試験で評価するが、欠席が3分の1を超えた場合は試験を受けられない。</p>	

神学基礎科目	
聖書通論3 新約通論・歴史	中野 実
後期・2単位	<登録条件>学部一年生中心のクラス
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書の内容に精通してもらうためのクラス。近い将来、新約聖書神学を深く学んでいくために不可欠な知識、センスを身につけてもらいたい。</p>	
<p><授業の概要> 学生全員が参加しながら、新約聖書の各文書の内容（神について、キリストについて、教会について）を学んでいく。</p>	
<p><履修条件> 特になし。</p>	
<p><授業計画></p> <p>学生は毎回クラスのために予習してくることが求められる。まずその日にクラスで扱う新約聖書の文書を前もって精読し、つぎにその文書（の著者）が①神について、②キリストについて、③教会について。どんなことを語っているかをまとめる。それらをクラスに持ち寄り、発表しながら、ともに内容に親しんでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① クラスのオリエンテーション ② マタイ、マルコ ③ ルカ、使徒言行録 ④ ヨハネ福音書 ⑤ ローマ、ガラテヤ ⑥ 第一コリント、第二コリント ⑦ エフェソ、コロサイ ⑧ フィリピ、第一テサロニケ、第二テサロニケ ⑨ 第一テモテ、第二テモテ、テトス ⑩ フィレモン、ヘブライ ⑪ ヤコブ、第一ペトロ ⑫ 第二ペトロ、ユダ ⑬ 第一ヨハネ、第二ヨハネ、第三ヨハネ ⑭ ヨハネ黙示録 ⑮ まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 日頃から聖書を読む習慣を身につける。</p>	
<p><テキスト> 旧・新約聖書。旧約も必ず持参する事。</p>	
<p><参考書> 必要があれば、クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席と参加を重視。出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。参加度、貢献度、努力などによって総合的に評価する。</p>	

神学基礎科目	
神学通論 a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>神学通論 b と通年で履修（登録）すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神学入門として、神学とはどのような学問であるか、どのような思考を求められているのかを学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 教会と信仰と神学の不可分性、教職を志す者として神学を学ぶこととその必要性について考える。</p>	
<p><履修条件> 学部2年生以上であること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 序——この授業の目的と課題 第1部 キリスト者と神学者 I. 霊的な務め・召命——1. 「職業」か？／2. 「天職」と「召命」 2. 3. われわれの奉仕／4. 教会の「教職」／5. 我々の務めと「階級」 3. II. 神学と教会奉仕の準備——1. 選びと準備／2. 牧師に神学教育は必要か？ 4. III. 神学と信仰の従順——1. 奉仕の出発点としての信仰の従順／2. 教会の奉仕の根本的要求／3. キリストの要求 5. 4. 聖なる奉仕 6. 第2部 キリスト教神学 I. 「神学」という言葉の意味 II. キリスト教神学の従来の意味——1. 神についての教え・ことばとしての神学 7. 2. 古プロテスタンティズムにおける「神学」の意味 8. III. 啓蒙主義以降の神学的思考の変化——1. 啓蒙主義と神学的思考／2. 聖書の「権威」の動揺 9. 3. 理性的・学問的思考、カントの批判、伝統的神学概念の解体 10. IV. 近代神学——1. シュライエルマッハーの神学／2. 「絶対的依存の感情」としての宗教 11. 3. 「実証的学問」としての神学／4. シュライエルマッハーの概念の積極的意義 12. 5. 批判 13. V. 近代神学の歩み——1. 概観／2. 神学的探求の中心領域（史的イエスの探求） 14. 2. 神学的探求の中心領域（信仰と知識の関係・神学と哲学） 15. 前期の学びのまとめ 	
<p><準備学習等の指示> ノートをきちんととること。</p>	
<p><テキスト> 特になし。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて、授業中に紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題および期末のレポートの総合による。</p>	

神学基礎科目	
神学通論 b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>神学通論 a と通年で登録（履修）すること
<授業の到達目標及びテーマ> (前期と同じ)	
<授業の概要> (前期と同じ)	
<履修条件> (前期と同じ)	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. V. 近代神学の歩み（続き）—— 3. 神学諸派／4. 神学的自由主義 2. 5. 教会的神学 3. VI. 新たな展開—— 1. 「近代神学」の「失敗」 4. 2. カール・バルトおよび「新しい神学」 5. 3. 神の言葉の神学 6. 4. 神の言葉における啓示 7. 5. 神学を中心としての神の言葉 8. VII. 神学と教会——福音の宣教と神学（神学の必要性） 9. 福音の宣教と神学（神学の可能性） 10. VIII. 神学の「学問的」性格—— 1. 神学と神学的学問／2. 「学問的神学」 11. 3. 神学の教派的性格 12. 4. 教会と神学的探求の自由 13. IX. 神学諸科の分類—— 1. シュライエルマッハーと近代神学の場合 14. 2. 神学的学問の統一性と全体性 15. 後期および一年間の学びのまとめ。 	
<準備学習等の指示> (前期と同じ)	
<テキスト> 特になし。	
<参考書> (前期と同じ)	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題および期末のレポートの総合による。	

外国語科目・英語	
英語 I A a	神代 真砂実
前期・1単位	<登録条件>学部1年生は必修
<p><授業の到達目標及びテーマ> 基礎的英語力の向上。</p>	
<p><授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するためにプリントを用いながら学んでいく。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画> 第1回 to不定詞 第2回 toなし不定詞 第3回 分詞 第4回 動名詞 第5回 動名詞と不定詞 第6回 時制 第7回 未来時の表現 第8回 進行形 第9回 完了形 第10回 態 第11回 仮定法（基礎） 第12回 仮定法（条件文その他） 第13回 比較 第14回 否定 第15回 名詞</p>	
<p><準備学習等の指示> 復習をしっかりとやること。</p>	
<p><テキスト> 担当者の配布するプリント。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の小テストによる。</p>	

外国語科目・英語	
英語 I A b	神代 真砂実
後期・1単位	<登録条件>学部1年生は必修
<p><授業の到達目標及びテーマ> 基礎的英語力の向上。</p>	
<p><授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するためにプリントを用いながら学んでいく。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画> 第1回 代名詞（基礎） 第2回 代名詞（形式主語、慣用表現など） 第3回 形容詞 第4回 冠詞 第5回 数量詞 第6回 副詞 第7回 動詞 第8回 法助動詞（will, shall, would, should） 第9回 法助動詞（can, may, must その他） 第10回 場所の前置詞 第11回 時間の前置詞 第12回 その他の前置詞 第13回 接続詞 第14回 関係代名詞 第15回 関係副詞</p>	
<p><準備学習等の指示> （前期に同じ）</p>	
<p><テキスト> （前期に同じ）</p>	
<p><参考書> （前期に同じ）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> （前期に同じ）</p>	

外国語科目・英語	
英語 I B a	関川 泰寛
前期・1単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 基礎英文法の全項目を復習しつつ、辞書を引きながら、神学書の内容を把握できるレベルまで修練を積むことを目標とする。</p>	
<p><授業の概要> 英語の基礎的な文法を確認しながら、入門的な神学書を読んで、英語の読解力を身につける。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文の構成、品詞、句と節文法事項の整理と読解 テキスト読解① 2 主要文型 テキスト読解② 3 名詞と冠詞 テキスト読解③ 4 人称代名詞と指示代名詞 テキスト読解④ 5 形容詞と副詞 テキスト読解⑤ 6 比較 テキスト読解⑥ 7 動詞 小テスト 8 助動詞 テキスト読解⑦ 9 不定詞と分詞、動名詞 テキスト読解⑧ 10 受動態 テキスト読解⑨ 11 命令法と仮定法 テキスト読解⑩ 12 文法関連のまとめテスト 13 テキストから Gunton, The Christian Faith, p.1~2 14 テキストから Gunton, The Christian Faith, p.3~4 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> 各自英文法の総復習をしておくこと。</p>	
<p><テキスト> Gunton, The Christian Faith, An Introduction to Christian Doctrine テキストは、こちらで用意する。</p>	
<p><参考書> 特に挙げないが、文法に関する資料は、講義の中でその都度配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 全講義の出席を前提として、クラスでの貢献度、テスト、小テストで総合的に評価する。</p>	

外国語科目・英語	
英語 I B b	関川 泰寛
後期・1単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 基礎英文法の全項目を復習しつつ、辞書を引きながら、神学書の内容を把握できるレベルまで修練を積むことを目標とする。</p>	
<p><授業の概要> 英語の基礎的な文法を確認しながら、入門的な神学書を読んで、英語の読解力を身につける。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テキスト Gunton, The Christian Faith, p.5~6 2 テキスト 7~8 頁 3 単語と翻訳確認と小テスト 4 テキスト 9~10 頁 5 テキスト 10~11 頁 6 単語と翻訳確認、総復習 7 テキスト 12~13 頁 8 テキスト 14~15 頁 9 単語と翻訳確認、小テスト 10 テキスト 16~17 頁 11 テキスト 18~19 頁 12 テキスト 20~21 頁 内容要旨を把握する 13 単語と翻訳確認、小テスト 14 テキスト 22 頁 内容要旨を把握する 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> 各自英文法の総復習をしておくこと。</p>	
<p><テキスト> Gunton, The Christian Faith, An Introduction to Christian Doctrine テキストはこちらで用意する。</p>	
<p><参考書> 特に挙げないが、文法に関する資料は、講義の中でその都度配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 全講義の出席を前提として、クラスでの貢献度、テスト、小テストで総合的に評価する。</p>	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語 I A a (1,2) (初級)	棟居 洋
前期・2単位	<登録条件>ドイツ語 I Ab と通年で登録すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語文法の基礎的学習に基づき、簡単なドイツ語の文章を読めるようになること。</p>	
<p><授業の概要> ドイツ語文法の基礎的学習に基づき、簡単なドイツ語の文章を読み、ドイツの文化、風土、社会の問題について理解を深める。</p>	
<p><履修条件> 学部 1、2 年次で履修すること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ABC、発音、日常の挨拶 前半 2. ABC、発音、日常の挨拶 後半 3. 動詞の現在人称変化、ドイツの食事 前半 4. 動詞の現在人称変化、ドイツの食事 後半 5. 名詞の性、格、複数形、冠詞の変化 前半 6. 名詞の性、格、複数形、冠詞の変化 後半 7. 定冠詞類、不定冠詞類、人称代名詞、ドイツ人の時間感覚 前半 8. 定冠詞類、不定冠詞類、人称代名詞、ドイツ人の時間感覚 後半 9. 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、動詞の命令形 前半 10. 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、動詞の命令形 後半 11. 形容詞の格語尾変化、ドイツの四季 前半 12. 形容詞の格語尾変化、ドイツの四季 後半 13. 形容詞の比較級、形容詞の名詞化、数詞、ドイツの都市 前半 14. 形容詞の比較級、形容詞の名詞化、数詞、ドイツの都市 後半 15. 動詞の過去人称変化、動詞の 3 基本形、不規則変化動詞 前半 16. 動詞の過去人称変化、動詞の 3 基本形、不規則変化動詞 後半 17. 動詞の完了形、分離動詞、非分離動詞、接続詞、副文、パッチワーク・ファミリー 前半 18. 動詞の完了形、分離動詞、非分離動詞、接続詞、副文、パッチワーク・ファミリー 後半 19. 受動、能動文と受動文、状態受動、zu 不定詞、sein+zu 不定詞、少数民族 前半 20. 受動、能動文と受動文、状態受動、zu 不定詞、sein+zu 不定詞、少数民族 後半 21. 話法の助動詞、未来の助動詞、使役動詞、再帰動詞、非人称の es、福祉先進国ドイツ 前半 22. 話法の助動詞、未来の助動詞、使役動詞、再帰動詞、非人称の es、福祉先進国ドイツ 後半 23. 定関係代名詞、不定関係代名詞、疑問代名詞、ドイツの平和教育 前半 24. 定関係代名詞、不定関係代名詞、疑問代名詞、ドイツの平和教育 後半 25. 指示代名詞、関係副詞 26. 接続法 1 式、接続法 2 式、言葉と異文化 前半 27. 接続法 1 式、接続法 2 式 言葉と異文化 後半 28. 動詞の現在・過去人称変化総復習 29. .冠詞+形容詞+名詞の格変化総復習 30. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 必ず復習・予習をして授業に臨むこと。授業時には独和辞典を必ず持参すること。</p>	
<p><テキスト> Takashi Oshio, Deutschland: Gestern, Heute und Morgen. Asahi Verlag. 学生各自で購入すること。</p>	
<p><参考書> 小笠原能仁・ヘルマン・トロール『文法から学べるドイツ語』(ナツメ社)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 学期の最後の授業で筆記試験を行ない達成度を評価する。出席回数が全授業回数の 2/3 に満たない者には受験を許可しない。</p>	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語 I A b (1,2) (初級)	棟居 洋
後期・2単位	<登録条件>ドイツ語 I Aa と通年で登録すること。
<授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語文法の基礎的学習に基づき、簡単なドイツ語の文章を読めるようになること。	
<授業の概要> テキストの章を追って簡単なドイツ語の文章を正確に読み解く。	
<履修条件> 学部 1、2 年次で履修すること。	
<授業計画> 1. Etwas zum Lachen 前半 2. Etwas zum Lachen 後半 3. Kannitverstan. 4. Das Geschenk. 5. Barbarossa 前半 6. Barbarossa 後半 7. Stille Nacht, heilige Nacht ! 8. Der Sintflut 前半 9. Der Sintflut 後半 10. Als Gauß noch Schüler war 前半 11. Als Gauß noch Schüler war 後半 12. Wie kräht der Hahn ? 前半 13. Wie kräht der Hahn ? 後半 14. Das Mädchen, das immer furzte 前半 15. Das Mädchen, das immer furzte 後半 16. Die Prinzessin auf der Erbse 前半 17. Die Prinzessin auf der Erbse 後半 18. Doktor Zamenhof 前半 19. Doktor Zamenhof 後半 20. Der Tee 前半 21. Der Tee 後半 22. Aus dem Leben eines Taugenichts 前半 23. Aus dem Leben eines Taugenichts 後半 24. Das Kamel 前半 25. Das Kamel 後半 26. Richard Wagner 前半 27. Richard Wagner 後半 28. Mensch und Umwelt 前半 29. Mensch und Umwelt 後半 30. まとめ	
<準備学習等の指示> 必ず復習・予習をして授業に臨むこと。授業時には独和辞典を必ず持参すること。	
<テキスト> 大岩信太郎編『初級後期ドイツ語読本(4)』(三修社) 学生各自で購入すること。	
<参考書> 授業の中でその都度紹介する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 学期最後の授業で筆記試験を行ない、達成度を評価する。出席回数が全授業回数の 2/3 に満たない者には受験を許可しない。	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語 I B a (コミュニケーション)	福嶋 揚
前期・1単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 神学生にとって有意義な「ドイツ語コミュニケーション」とは、何よりもドイツ語による「キリスト教的コミュニケーション」であろう。プロテスタントの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学びたい。</p>	
<p><授業の概要> 様々なテキスト、音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。また平易なドイツ語テキストを併せて読むことにしたい。</p>	
<p><履修条件> 学部2年に履修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主の祈り、ニカイア信条、使徒信条 2. 十戒その他の重要な戒め 3. 詩編に基づく祈り 4. 聖書に基づく賛美の祈り 5. 子供と共に祈る 6. 日常の中の祈り 7. 日曜日から土曜日までの日ごとの祈り 8. その他の様々な場面での祈り 9. ローズンゲン(日々の聖句集)の使い方 10. カテキズム(ルター小教理問答) 11. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部) 12. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部前半) 13. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部後半) 14. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部前半) 15. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部後半) 	
<p><準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。</p>	
<p><テキスト> ドイツ語訳聖書、ドイツ語のローズンゲン、ドイツ語賛美歌集等。必要に応じてコピーを配布。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて配布する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、積極的な授業参加、期末試験によって評価する。</p>	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語 I B b (コミュニケーション)	福嶋 揚
後期・1単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 前期に引き続いて、プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きたドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学びたい。</p>	
<p><授業の概要> 前期に引き続いて、様々なテキストや音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。</p>	
<p><履修条件> 学部2年に履修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 礼拝の言葉 2. アンダハトの言葉(家庭で) 3. アンダハトの言葉(教会暦にあわせて) 4. 賛美歌のテキストに学ぶ(アドベント) 5. 賛美歌のテキストに学ぶ(クリスマス) 6. 賛美歌のテキストに学ぶ(受難節) 7. 賛美歌のテキストに学ぶ(復活祭) 8. 賛美歌のテキストに学ぶ(昇天祭) 9. 賛美歌のテキストに学ぶ(ペンテコステ) 10. 賛美歌のテキストに学ぶ(その他の様々な季節、テーマ) 11. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 Feiert Jesus から) 12. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 In Love with Jesus から) 13. ラジオ講演を聞く(カール・バルト) 14. 礼拝説教を聞く(カール・バルト) 15. 礼拝説教を聞く(現代の説教例から) 	
<p><準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて配布する。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて配布する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、積極的な参加、および期末試験によって評価する。</p>	

外国語科目・英語	
英語Ⅱ a	高砂 民宣
前期・1単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英文の神学書に慣れ親しみ、読解能力を高めると共に、神学用語や慣用表現等も習得する。</p>	
<p><授業の概要> 比較的平易な英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。</p>	
<p><履修条件> 学部2年生以上であること。</p>	
<p><授業計画> 第1回： Unit 10: John 20-21 The Resurrection Appearances of Jesus (p.116)より。 第2回： The Empty Tomb (20:1-10) p.117 第3回： The Empty Tomb (20:1-10) p.118 第4回： Mary in the Garden (20:11-18) p.118 第5回： Mary in the Garden (20:11-18) p.119 第6回： The Closed Room Appearances (20:19-29) p.120 第7回： The Closed Room Appearances (20:19-29) pp.121-122 第8回： The First Ending (20:30-31) p.122 第9回： The Epilogue (Chapter 21) pp.122-123 第10回： The Fish Miracle (21:1-14) pp.123-124 第11回： The Fish Miracle (21:1-14) p.125 第12回： Jesus and Simon Peter (21:15-19) pp.125-126 第13回： Simon Peter and the Beloved Disciple (21:20-23) pp.126-127 第14回： The Second Ending (21:24-25) pp.127-128 第15回： Questions for Reflection p.128</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。</p>	
<p><テキスト> Matson, Mark A., <u>John.</u>, Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002. (担当者が用意する)</p>	
<p><参考書> 授業の中で教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2/3に満たない者は、評価の対象としない。</p>	

外国語科目・英語	
英語Ⅱ b	高砂 民宣
後期・1単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英文の神学書に慣れ親しみ、読解能力を高めると共に、神学用語や慣用表現等も習得する。</p>	
<p><授業の概要> 比較的平易な英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。</p>	
<p><履修条件> 学部2年生以上であること。</p>	
<p><授業計画> 第1回：Preface pp.xi-xii 第2回：Symbol, Meaning, and Mystery pp. 1-3 第3回：Johannine Symbolism in its Literary Context pp. 3-4 第4回：Defining Johannine Symbolism pp. 4-5 第5回：Defining Johannine Symbolism pp. 6-8 第6回：Recognizing Johannine Symbols pp. 8-9 第7回：Recognizing Johannine Symbols pp. 10-12 第8回：The Structure of Johannine Symbolism pp. 13-15 第9回：Johannine Symbolism in its Cultural Context pp. 15-17 第10回：The Spectrum of Johannine Readers pp. 18-20 第11回：The Spectrum of Johannine Readers pp. 21-23 第12回：Interpreting Johannine Symbolism p. 24 第13回：Interpreting Johannine Symbols pp. 25-27 第14回：Meaning and Mystery pp. 27-29 第15回：Meaning and Mystery pp. 30-31</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。</p>	
<p><テキスト> Koester, Craig R., <i>Symbolism in the Fourth Gospel: meaning, mystery, community.</i>, Fortress Press, 1995. (担当者が用意する)</p>	
<p><参考書> 授業の中で教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2/3に満たない者は、評価の対象としない。</p>	

外国語科目・英語	
英語実践 I	W. ジャンセン
前期・1単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。</p> <p>第1回 About Myself 第2回 About Myself 第3回 About My Family 第4回 About My Family 第5回 About Time 第6回 About Time 第7回 About Transportation 第8回 About Transportation 第9回 About Meeting Others 第10回 About Meeting Others 第11回 About Drinks 第12回 About Drinks 第13回 About Snacks 第14回 About Snacks 第15回 Overall Review</p> <p>必要に応じて、英会話の力を養う。</p>	
<p><準備学習等の指示> 休まないこと。会話に参加すること。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室で配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テストなど。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

外国語科目・英語	
英語実践Ⅱ	W. ジャンセン
後期・1単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。</p> <p>第1回 About The Weather 第2回 About The Weather 第3回 About Money 第4回 About Money 第5回 About Shopping 第6回 About Shopping 第7回 About Birthdays 第8回 About Birthdays 第9回 About Clothes 第10回 About Clothes 第11回 About Directions 第12回 About Directions 第13回 About Home 第14回 About Home 第15回 Overall Review</p> <p>必要に応じて、英会話の力を養う。</p>	
<p><準備学習等の指示> 休まないこと。会話に参加すること。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室で配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テストなど。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語Ⅱ a	福嶋 揚
前期・1単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語神学書の講読。神学的な諸概念と思考法の習得。</p>	
<p><授業の概要> 現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読む。ユンゲルは本書において、二十世紀のエキュメニズムの動向をふまえつつ、宗教改革の伝統である信仰義認論の本質を解説する。西洋思想の「正義」論の系譜の中で、キリスト教的な「正義」論としての義認論が持つ独自の現代的意義を明らかにした、必読の書である。前期の前半においては、信仰義認論をめぐる聖書その他の基本的なテキストをドイツ語で読み、準備をととのえる。それからユンゲルの著書をドイツ語で丁寧に読み進めていきたい。</p>	
<p><履修条件> 初級文法を習得していること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 ユンゲルの著書への入門など 2. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(1) 旧約聖書より 3. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(2) 新約聖書より 4. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(1) ルター 5. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) メランヒトン 6. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) 和協信条 7. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(3) トリエント公会議の教令 8. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(1) カール・バルト 9. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(2) ハンス・キュンク 10. Jünger, 1-4. (頁数。以下同様。) 11. 4-11. 12. 43-48. 13. 48-52. 14. 52-58. 15. 58-65. 	
<p><準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。</p>	
<p><テキスト> Eberhard Jünger, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³1999. その他のテキストは必要に応じて配布する。</p>	
<p><参考書> 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。</p>	

外国語科目・ドイツ語	
ドイツ語Ⅱ b	福嶋 揚
後期・1単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> ドイツ語神学書の講読。神学的な諸概念と思考法の習得。</p>	
<p><授業の概要> ドイツ語Ⅱ a(前期)を参照。前期に続いて、現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読み進める。</p>	
<p><履修条件> 初級文法を習得していること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Jünger, 65-74. (頁数。以下同様。) 2. 75-86. 3. 86-97. 4. 97-106. 5. 106-114. 6. 114-125. 7. 126-143. 8. 143-155. 9. 156-169. 10. 169-180. 11. 180-190. 12. 191-201. 13. 201-209. 14. 210-220. 15. 221-234. 	
<p><準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。</p>	
<p><テキスト> Eberhard Jünger, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³1999. その他の資料は必要に応じて配布する。</p>	
<p><参考書> 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。</p>	

保健体育科目	
体育 I	高橋 伸
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>自らの日常生活、活動を有意義で活動的に過ごすために、運動を中心としたレクリエーション活動の基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、他者への働きかけの方法も学ぶ。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識するとともに、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得する。</p> <p>2. 宣教・教会活動などに役立つレクリエーション活動の理論と各種活動、及び指導法の習得を目指す。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 1</p> <p>3. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際 2</p> <p>4. ソフトボール 1 * 東神大運動会に向けて</p> <p>5. ソフトボール 2</p> <p>6. ソフトボール 3</p> <p>7. ニュースポーツ 1 (フライングディスク)</p> <p>8. ニュースポーツ 2 (ガガ、ユニホック)</p> <p>9. ニュースポーツ 3 (カップ)</p> <p>10. ニュースポーツ 4 (ペタンク)</p> <p>11. ニュースポーツ 5 (クロッカー)</p> <p>12. キャンプ・クラフト 1 (火起し)</p> <p>13. キャンプ・クラフト 2 (飯盒炊飯)</p> <p>14. レクリエーション指導法</p> <p>15. まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>1. 運動できる服装、又は活動相応の衣服 (キャンプ・クラフト) で参加すること。</p> <p>2. 体調に留意すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>講師が準備する</p>	
<p><参考書></p> <p>特になし</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) ></p> <p>1. 全授業回数数の 2 / 3 以上出席したものに対して評価を行う。</p> <p>2. 技術 (60%)・知識 (20%)・態度 (20%) について評価する。</p>	

保健体育科目	
体育Ⅱ	岡田 光弘
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>身体を動かす楽しさと喜びを認識し、各自の体力に合わせてながら、練習法、ルール、試合に必要な技術について学ぶことで、生涯スポーツの基礎を獲得すること</p>	
<p><授業の概要></p> <p>硬式庭球、卓球の試合が行えるようになるために、以下の事柄について学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ゲームを構成するすべての技術について、その技術を習得する。 2. ゲームを構成するすべてのルールを習得する。 3. 学期が終わったあとも自己学習ができるように練習の仕方を学ぶ。 	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. コーディネーション・トレーニングの理論と実践 3. フォアハンドボレー、バックハンドボレー（以下、テニス） 4. フォアハンド・ストローク 5. バックハンド・ストローク 6. サービスとレシーブ 7. テニスのルールと用具の歴史、ミニゲーム 8. ダブルス・ゲーム 9. シングルス・ゲームとテニスのまとめ 10. ピンポン、卓球のルールと用具の歴史（以下、卓球） 11. バックハンド・ショート（またはハーフボレー）、ドライブ 12. フォアハンド・ストローク（ドライブ打法） 13. 多球練習による分習法、制限付きゲームによる全習法 14. シングルスとダブルスの試合 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動に適した服装に着替えること 2. それぞれの種目に適した靴を用意すること 3. 体調に十分留意すること 	
<p><テキスト></p> <p>井上俊・菊幸一（編）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房 （購入の必要はありません。）</p>	
<p><参考書></p> <p>橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社 （購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>技能：60% 時間ごとの観察により評価します。 知識：20% 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20% 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。 出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしません。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学 I	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ>旧約聖書正典形成史、本文伝承史、モーセ五書批判を概説し、もって旧約聖書とは何かという問いに、歴史的文献学的見地から取り組む。</p>	
<p><授業の概要>旧約聖書正典の成立過程、およびその歴史的背景を概説し、正典として確定した本文の伝承の歴史を概観する。その後、モーセ五書批判の諸問題を考察する。</p>	
<p><履修条件>神学基礎科目 A を履修済みまたは並行して履修していること。 旧約聖書神学 I は II、III より先に受講することが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、近代の旧約聖書研究（1） 旧約聖書緒論について、 緒論学の歴史：アイヒホルンからヴェルハウゼンまで 2. 近代の旧約聖書研究（2） 緒論学の歴史：宗教史学派と伝承史研究、最近の動向 3. 正典とは何か 正典の位置づけ、正典論と正典批判、新約と旧約 4. 旧約正典形成史 5. 正典と本文 本文批判の位置づけ、ヒブル語本文の確立、ヒブル語本文の伝承 6. ヒブル語本文伝承の歴史 ソーフェリーム、マソラ、本文校訂の歴史 7. ギリシャ語訳旧約聖書その他の古代訳概説 七十人訳とその改訂作業の歴史、そのほかのギリシャ語訳、 オリゲネスの業績、ヒエロニムス 8. モーセ五書批判とは何か 9. モーセ五書批判 文書仮説 10. モーセ五書批判 伝承史 11. 「ヤーウイスト」 12. 「エローヒスト」 13. 「祭司文書」あるいは「祭司的編集」 14. 物語と法、預言者への展望 15. まとめと知識の確認 	
<p><準備学習等の指示>旧約聖書、とくにモーセ五書を熟読すること。</p>	
<p><テキスト>左近淑『旧約聖書著論講義』教文館（2004年増刷版）。 第1回授業までに各自で購入のこと</p>	
<p><参考書>アップデートされたレジюмеと文献表を授業中に配付する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。 理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅱ	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書諸文学の成立過程とその歴史的背景から、旧約正典ならびにユダヤ教正典全体の構造と諸文書間の緊張関係を明らかにする。</p>	
<p><授業の概要> 申命記および申命記的歴史、歴代誌的歴史、知恵文学、さらに詩文学について学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 申命記的歴史（総論およびMノート以前の研究史） 3. 申命記的歴史（Mノート以降の研究史） 4. 申命記的歴史（各論） 5. 申命記（総論） 6. 申命記（各論） 7. 歴代誌的歴史（総論） 8. 歴代誌的歴史（各論） 9. 知恵文学（総論） 10. 知恵文学（各論：ヨブ記） 11. 知恵文学（各論：箴言、コヘレトの言葉） 12. 詩編（総論） 13. 詩編（各論） 14. その他の詩文学 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 教科書をよく読むこと。旧約聖書をよく理解したいという意欲を持って授業に臨むこと。</p>	
<p><テキスト> 左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』（教文館）を各自で用意すること。なお、教科書はすべての範囲を網羅していないので、W.H.シュミット（木幡訳）『旧約聖書入門上・下』（教文館）を参考書として推薦する。</p>	
<p><参考書> レジュメと文献表を授業中に配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 筆記試験で評価する。欠席3分のIを超えた場合は受験できない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅲ	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ> 預言者概論および「預言書」各書の緒論的解説を行う。	
<授業の概要> 預言者とは何か、預言書とは何か、預言者はどのようにして他に比べるものない神の言葉の伝承を生み出したのか、預言とは何か、これらの諸問題を明らかにする。また、近年盛んに議論されている預言書の形成の問題を考察する。	
<履修条件> 旧約聖書神学Ⅰ履修済みまたは並行して履修中であること	
<ol style="list-style-type: none"> 1. <授業計画> 「預言者」という書物群（正典第二部）と預言書： 課題の設定とレジュメの配付 2. 預言者とは何か： G・フォン・ラートおよび彼以降の預言者論を概観する。 3. 預言者と伝承史： フォン・ラートらの預言者論を可能にした伝承史的テキスト理解を説明する。 4. イザヤ書と8世紀の預言者イザヤ：イザヤ書が描き出す8世紀の預言者イザヤの預言の特質を論じる。しかし、イザヤ書から預言者イザヤの姿は、どの程度読み取れるのであろうか。 5. 「第二イザヤ」とイザヤ書成立史：「第二イザヤ」とは何者か。なぜイザヤ書の中にあるのか。 6. 預言と黙示：イザヤ書の編集の枠組みとなっている黙示文学的テキストを概観する。 7. 十二小預言書：十二人の預言者の預言と物語を概観する。 8. アモスとホセア：十二人の預言者のうち、8世紀北王国の二人の預言者の預言の特質を考察する。 9. エレミヤ書の構造：エレミヤ書の文学的構造を理解する。原マソラ本文のエレミヤ書と七十人訳エレミヤ書の構造の違いを考察する。 10. 預言と預言者物語：預言書に含まれる預言者物語の意味を論じる。また、「前の預言者」（歴史書）と「後の預言者」（いわゆる預言書）の関係を考察する。 11. 申命記史家の預言書編集：エレミヤ書は申命記史家の編集になると言われる。学説を吟味する。 12. エゼキエルの幻：エゼキエル書の構造と、その背後にある歴史を理解する。 13. 審判預言と救済預言：エルサレムの破壊と預言者の使信の転回をあとづける。 14. ダニエル書：黙示文学の特徴を解説する。 15. まとめおよび知識の再確認 	
<準備学習等の指示> 聖書の預言書および歴史書（とくにその）預言者物語を熟読すること。	
<テキスト> 左近淑『旧約聖書緒論講義』（2004年増補版）教文館。各自で準備すること。	
<参考書> 授業中にレジュメを配付し、その中で参考文献を指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書釈義 a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指し、具体的に釈義を試みる。それによって釈義レポートを作成することを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 詩編の幾つかを釈義する。注解書のほかに説教黙想をも用いながら釈義をし、釈義レポートを作成する。</p>	
<p><履修条件> 旧約神学 I および II を履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 詩編を釈義すること 3. 詩編 23 編のテキストを読む 4. 詩編 23 編の釈義 5. 詩編 23 編のさまざまな解釈 6. 詩編 42-43 編のテキストを読む 7. 詩編 42-43 編の釈義 8. 詩編 42-43 編のさまざまな解釈 9. 詩編 22 編のテキストを読む 10. 詩編 22 編の釈義 11. 詩編 22 編の説教黙想 (1) 12. 詩編 22 編の説教黙想 (2) 13. 詩編 22 編の説教黙想 (3) 14. 釈義レポートの書き方について 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 釈義のテキストである詩編をよく読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> 新共同訳聖書を用いる。ヘブライ語の知識はなくてよい。説教黙想はコピーを用いる。</p>	
<p><参考書> 詩編注解書などについて、そのつど指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 釈義レポートを提出していただき、それにより評価する。3分の I 以上欠席した者はレポートを提出できない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書釈義 b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 釈義の課題と方法論についてじっくり学び、釈義の基本的知識を身に付ける。</p>	
<p><授業の概要> まず釈義とは何かを考え、神学辞典や注解書などの二次文献の使い方について学ぶ。第5回以降は、『旧約聖書釈義入門』を用いて釈義の方法論を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 後期のみの履修も可能。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 釈義とは何か 3. 聖書翻訳の問題について 4. 注解書について 5. 第1章 基礎付けと概観 6. 第3章 本文批判 7. 第4章 文献批判 8. 第5章 伝承史的問題設定 9. 第6章 編集史的問題設定 10. 第7章 様式史的問題設定 11. 第8章 伝統史的問題設定 12. 第9章 歴史的場の決定 13. 第10章 目標 14. 文芸学的方法および修辞学的方法 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 方法論の学びが中心となるので、あらかじめテキストをよく読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> H.バルト/O.H.シュテック『旧約聖書釈義入門』(山我哲雄訳)、日本基督教団出版局(オンデマンド出版、4830円)を用いる。各自購入すること。</p>	
<p><参考書> そのつど指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加と筆記試験で評価する。3分の1以上欠席した者は試験を受けることが出来ない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学 I II a	中野 実
後期・2単位	<登録条件>主として学部2～3年生のクラス
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書を学問的に読むことの信仰的神学的意義について考え、新約聖書を多角的に理解する能力をやしなうことがこのクラスの目標。</p>	
<p><授業の概要> 新約聖書神学 I II a においては、主に講義を通して、新約聖書とは何か、聖書学、聖書神学とは何か、聖書正典とは何か、などについて学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 本年度は新約聖書神学 I と新約聖書神学 II を後期にまとめて1つの連続したクラス（週2回集まる）として行うので、I と II を必ず同時履修する事。どちらかのみの履修は認めない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>新約聖書神学：総論</p> <ol style="list-style-type: none"> ①聖書を学問的に読むとは？ 聖書とは何か？ 聖書を学問の対象とするとは？ ②聖書を学問的に読むとは？ 聖書学＝聖書の批判的研究。 ③聖書を学問的に読むとは？ 近・現代の聖書学のルーツについて。 ④新約聖書とは何か？ 新約聖書という名称について。旧約聖書について。 ⑤新約聖書とは何か？ 新約聖書の文学について。 ⑥新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書について（1）正典とは何か？ ⑦新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書について（2）新約正典成立史 ⑧新約聖書の翻訳、原典、写本について ⑨新約聖書の世界：時代史（1）パレスチナユダヤ社会 ⑩新約聖書の世界：時代史（2）ローマ帝国におけるキリスト教の発展 <p>新約聖書神学：各論：福音書研究</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑪福音書とは何か？序 ⑫福音書とは何か？正典福音書と外典福音書 ⑬共観福音書問題：序 ⑭共観福音書問題：マルコ優先説、二資料仮説 ⑮共観福音書問題：Q資料、なぜ四つなのか？ <p>学生の顔ぶれや状況を見ながら、進み具合を調整するので、授業計画は変更される場合がある！</p>	
<p><準備学習等の指示> 聖書を日頃からよく読むこと。</p>	
<p><テキスト> 旧・新約聖書。 旧約聖書も必ず持ってくる事。ギリシア語新約聖書も持参することが望ましい。</p>	
<p><参考書> 樋口、中野『聖書学用語辞典』（日本キリスト教団出版局、2008年）、G・タイセン『新約聖書：歴史、文学、宗教』（大貫隆訳、教文館、2003年）。その他、必要な文献はクラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席重視。出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象としない。出席（＋クラスでの姿勢）に加え、聖書クイズ、聖書学用語のテスト、レポートなどによって総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学 I II b	中野 実
後期・2単位	<登録条件>学部2～3年生が中心のクラス
<p><授業の到達目標及びテーマ> 主に講義を中心に、新約聖書の四福音書に関する理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> 内容的には、新約聖書神学 I II a の続き。福音書研究に関する基本的知識を学んだのち、四正典福音書の個性的な物語と神学について学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 本年度は新約聖書神学 I と新約聖書神学 II を後期にまとめて1つの連続したクラス（週2回集まる）として行うので、I と II を必ず同時履修する事。どちらかのみの履修は認めない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>⑯マルコ福音書：緒論的諸問題 ⑰マルコ福音書：物語と神学：前半 ⑱マルコ福音書：物語と神学：後半 ⑲マタイ福音書：緒論的諸問題 ⑳マタイ福音書：物語と神学：前半 ㉑マタイ福音書：物語と神学：後半 ㉒カ福音書：緒論的諸問題 ㉓ルカ福音書：物語と神学：前半 ㉔ルカ福音書：物語と神学：後半 ㉕ルカ文書：使徒行伝について ㉖ヨハネ福音書：緒論的諸問題 ㉗ヨハネ福音書：物語と神学：前半 ㉘ヨハネ福音書：物語と神学：後半 ㉙ヨハネ文書：福音書と書簡 ㉚まとめ</p> <p>学生の顔ぶれや状況を見ながら、進み具合を調整するので、スケジュールは変更される場合がある！</p>	
<p><準備学習等の指示> 新約神学 I II a の項目を参照。</p>	
<p><テキスト> 旧・新約聖書。ギリシア語の新約聖書も持参することが望ましい。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて、クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。その他、クラスでの姿勢、試験（あるいはレポート）などによって、総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅲ	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ>使徒パウロの伝道活動と神学をコリントの信徒への手紙一を通して学ぶ。	
<授業の概要>コリントの信徒への手紙一を毎回一章ずつ読み、検討する。	
<履修条件>ギリシア語履修済みのこと。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パウロの伝道旅行 使徒言行録とパウロ真正書簡の比較によって 2. コリントー1章、16章 手紙の始まりと終わり 3. コリントー2章、十字架の言葉 4. コリントー3章、霊の人と肉の人 5. コリントー4章、パウロの使命 6. コリントー5章、6章、教会内での紛争の処理 7. コリントー7章、結婚について 8. コリントー8章、偶像に供えられた肉 9. コリントー9章、使徒の権利とパウロの権利放棄 10. コリントー10章、悪霊とは 11. コリントー11章、礼拝における秩序の問題 12. コリントー12章、13章、愛 13. コリントー14章、異言と預言 14. コリントー15章、キリストの復活 15. 総括 	
<準備学習等の指示>復習のために毎回定められた課題の提出、予習のために当日の聖書箇所、テキストを読んで出席すること。	
<テキスト>R.B.ヘイズ『現代聖書注解 コリントの信徒への手紙一』日本基督教団出版局、2001年各自準備のこと。	
<参考書>適宜紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>出席状況、授業参加、課題、期末試験を総合的に評価する。	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書釈義 a	中野 実
後期・2単位	<登録条件>学部4年生を中心としたクラス
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 概論ののち、まずフィー『新約聖書の釈義』を用いながら釈義の方法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ギリシア語を既に履修済みであること。また2012年度においては、新約釈義aとbを後期にまとめて連続したクラスとして開講する(つまり週二回集まる)ので、必ず両方を履修すること。片方のみの履修は認めない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション：クラスの目標と課題について ② 釈義とは何か？ 釈義の具体的課題について ③ フィー『新約聖書の釈義』序論および第1章の説明 ④ 第1章の続き。釈義の全行程を概観。 ⑤ ステップ1～2 歴史的脈略、章句の区切りなど ⑥ ステップ3 段落・ペリコーペの熟知 ⑦ ステップ4 文の構成と統語的關係の分析 ⑧ ステップ5 本文の確定：本文批評 ⑨ ステップ5 本文批評つづき ⑩ ステップ6 文法の分析 ⑪ ステップ7 語の分析：ワード・スタディー ⑫ ステップ8 歴史的文化的背景の探求 ⑬ 書簡の釈義 ⑭ 福音書の釈義 ⑮ まとめ <p>学生の顔ぶれや状況を見ながら、進み具合などを調整しつつ行うので、スケジュールを変更する場合もある。</p>	
<p><準備学習等の指示> 釈義は、ただ講義を聴いているだけでは身に付かない。実際に自分で試みて見る事が必要。釈義はある意味で職人芸。苦勞して身につけるしか道はない！</p>	
<p><テキスト> ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』永田訳(教文館、1998年)。クラスの初回までに各自が購入しておくこと。旧・新約聖書およびギリシア語新約聖書。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて、クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席重視。出席が3分の2に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。毎回のクラスでの姿勢、期末の課題(試験あるいはレポート)などによって、総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書釈義 b	中野 実
後期・2単位	<登録条件>学部4年を中心としたクラス
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書釈義 a のシラバスを参照。</p>	
<p><授業の概要> 近・現代の聖書学において培われてきた方法論を、おもに講義を通して学ぶ。歴史批評学的方法論、そしてそれを乗り越えようとする新しい方法論について、また説教のための釈義についても学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ギリシア語を既に履修済みであること。2012年度は、新約釈義 a と b を後期にまとめて連続したクラスとして開講するので、両方を必ず履修すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>歴史批評学的方法論 ⑯序論 ⑰本文批評 ⑱文献批評 ⑲宗教史的考察 ⑳様式史 ㉑編集史</p> <p>歴史批評学を乗り越える方法論 ㉒序論 ㉓物語批評 ㉔読者反応批評 ㉕フェミニスト批評 ㉖正典批評</p> <p>説教のための釈義 ㉗説教のための釈義とは何か？ ㉘説教の準備 ㉙説教の課題など ㉚まとめ</p> <p>学生の顔ぶれや状況を見ながら、進み具合などを調整しながら行うので、スケジュールを変更する場合もある。</p>	
<p><準備学習等の指示> 新約聖書釈義 a の項目を参照。</p>	
<p><テキスト> 新約聖書釈義 a の項目を参照。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて、クラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席重視。出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象とはしない。出席、クラスでの姿勢、期末の課題などをおして、総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅰ（1,2）	三永 旨従
前期・4単位	<登録条件>ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 前期は基本的文法を中心とする。 新約聖書のギリシャ語理解のために、テキストに則して基本文型を身につけていく。目的はあくまで新約文書群の読解にあるために練習問題は、ギリシャ語の日本語訳に限定する。授業の合間に、少しずつ、ギリシャ語新約聖書に慣れることも同時に行なう。前後期を通じ、特に原典で新約文書群を読むことの具体的な意義、及びそこから生じる違いについても学んでゆく。</p>	
<p><履修条件> ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新約聖書を原典で読むことについて 2. 写本について 3. 新約聖書のギリシャ語の特色 4. 文字と発音 5. 単語と音節 6. ギリシャ語のアクセントの特色 7. 句読点 8. ギリシャ語動詞の活用について 9. 動詞活用－現在形 10. ギリシャ語名詞の特色 11. 名詞の変化－男性形 12. 名詞の変化－女性形 13. ギリシャ語前置詞の特色 14. 前置詞の用法 15. 受動形能動態について 16. 中動形動詞のいろいろ 17. 動詞活用－中動形 18. 動詞活用－受動形 19. ギリシャ語人称代名詞の特質 20. 人称代名詞 21. 未完了形動詞の特質 22. 動詞活用－未完了形 23. ギリシャ語の過去時制について 24. アオリスト形動詞の特質 25. 動詞活用－第一アオリスト形 26. 動詞活用－第二アオリスト形 27. ギリシャ語の形容詞の特質 28. ギリシャ語の形容詞の性、数、格 29. 形容詞の変化－男性形 30. 形容詞の変化－女性形 	
<p><準備学習等の指示> 暗記すべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自さらにはグループ学習で反復練習する時間を取るのが望ましい。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大貫隆著『新約聖書 ギリシャ語入門』岩波書店（学生各自で用意する。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。） 	
<p><参考書> なし</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（口頭試問）</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅱ	三永 旨従
後期・2単位	<登録条件>ギリシャ語Ⅰの履修
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ギリシャ語文法の理解と読解能力を習得していく中で、新約聖書原典を辞書その他の手段を用いながらも一人で読解できる能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>ギリシャ語Ⅰに続けて基礎文法を終わらせ、具体的な新約文書群の読解に入る。各授業毎にギリシャ語特有の文法体系に由来する特徴を具体的にテキストにあたって学ぶ。基本文法を終わらせると同時に、実際に新約文書群を読む際に、大きな障害となり易い点（分詞構文、不定詞構文等）にも焦点をあてる。上記の留意点を考慮しつつ、より平易な新約文書を実際に読んでいく。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ギリシャ語Ⅰの履修</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞の変化一分詞 2. 母音融合動詞 3. 流音動詞 4. 動詞の変化－不定法 5. 動詞の変化－希求法 6. 疑問代名詞 7. 関係代名詞 8. 動詞の変化－命令法 9. 特殊形動詞 10. 冠詞とその用法 11. 動詞の変化－接続法 12. 数詞 13. 独立属格の構文 14. 不定詞+名詞の目的格の構文 15. 分詞の述語的用法 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>暗記すべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自反復練習する時間を取ることが望ましい。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大貫隆著『新約聖書 ギリシャ語入門』岩波書店（学生各自で用意する。） ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE または UBS 版 Greek New Testament（学生各自で用意する。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。） 	
<p><参考書></p> <p>なし</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（筆記試験）</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学 I a	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件> 3年次で履修することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学の中の教義学を扱う。キリスト教教義学の概論の前半部分を扱う。</p>	
<p><授業の概要> 組織神学における教義学の位置、その構成、そして啓示と三位一体、創造論、贖罪論まで扱う。</p>	
<p><履修条件> 必修科目であるだけでなく、神学の重要科目であることを認識して積極的に学ぶことが求められる。</p>	
<p><授業計画> 第一回：神学とは何か 第二回：組織神学における教義学 第三回：福音主義の神学（1）日本の神学における福音主義 第四回：福音主義の神学（2）福音主義の系譜 第五回：神の啓示と聖書的証言（1）イエス・キリストの歴史的事実 第六回：神の啓示と聖書的証言（2）聖書的証言と霊的認識 第七回：救いの出来事と神の国（1）イエス・キリストとその福音 第八回：救いの出来事と神の国（2）イエス・キリストにおける神の支配 第九回：三位一体の神（1）啓示と三位一体 第十回：三位一体の神（2）父、子、聖霊なる神 第十一回：神の永遠の意志決定と契約の神（1）神の意志決定の内容 第十二回：神の永遠の意志決定と契約の神（2）契約の神 第十三回：三位一体の神による創造（1）創造者である神 第十四回：三位一体の神による創造（2）神の被造物 第十五回：イエス・キリストとその血による贖罪</p>	
<p><準備学習等の指示> キリスト教神学の中心とも言うべき教義学について概略の知識を得るべく、関係文献に触れておくこと。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> 近藤勝彦『二十世紀の主要な神学者たち』『啓示と三位一体』（いずれも教文館）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況と試験によって判断する。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学 I b	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件> 3年次で履修することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教義学の後半部分を扱う。</p>	
<p><授業の概要> 聖霊論、伝道論、教会論、再生論、統治論、終末論などを扱う。</p>	
<p><履修条件> 前期の組織神学 I a を履修していること。</p>	
<p><授業計画> 第一回：イエス・キリストとその血による贖罪 第二回：キリストの高挙と現在のキリスト（1）キリストの高挙 第三回：キリストの高挙と現在のキリスト（2）キリストの現在 第四回：聖霊の御業（1）キリストと聖霊の働き 第五回：聖霊の御業（2）信仰の霊、生命の霊 第六回：教会の根拠と使命（1）教会の根拠 第七回：教会の根拠と使命（2）教会の使命 第八回：伝道の根拠、位置、意味（1）伝道の意味と位置 第九回：伝道の根拠、位置、意味（2）人間の働きの意味 第十回：キリスト者の新生（1）義認と聖化 第十一回：キリスト者の新生（2）召しと派遣 第十二回：神の歴史統治（1）摂理論の意味 第十三回：神の歴史統治（2）摂理と歴史 第十四回：終末論（1）個人的・宇宙的終末論 第十五回：終末論（2）歴史的終末論</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストを読んで積極的に授業に参加するように。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> 近藤勝彦『二十世紀の主要な神学者たち』の参考文献に挙げられている各神学者たちの著書</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業出席の状況と、試験の内容によって評価する。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅱ a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>組織神学Ⅱb と通年で登録（履修）すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教倫理学の基礎および諸問題について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 前期は主にキリスト教倫理の形成に取り組むにあたっての予備的議論を扱う。</p>	
<p><履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序——過渡期のキリスト教倫理学 2. I. キリスト教倫理と倫理的課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 倫理的課題、2) 一般倫理の諸側面、3) 行為についての規範的倫理学の形成 3. 4) 倫理学と価値についての理論、5) 存在についての規範的倫理学の形成 4. 6) 倫理学の正当化 5. 7) 正当化の諸説 II. ギリシャの倫理学的伝統 <ol style="list-style-type: none"> 1) キリスト教とギリシャの倫理学的伝統、2) プラトン 6. 3) アリストテレス 7. 4) エピクロス、5) ストア派 8. 6) プロティノス III. 聖書の倫理 <ol style="list-style-type: none"> 9. 1) 旧約聖書 10. 2) イエス 11. 3) パウロ 12. IV. 伝統的モデル <ol style="list-style-type: none"> 1) アウグスティヌス 13. 2) トマス・アクィナス 14. 3) 宗教改革者達 15. 前期のまとめ 	
<p><準備学習等の指示> よくノートをとること。</p>	
<p><テキスト> なし</p>	
<p><参考書> H・リチャード・ニーバー、『キリストと文化』、赤城泰訳、(日本キリスト教団出版局、オンデマンド)。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題と期末のレポートによる。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅱ b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>組織神学Ⅱ a と通年で登録（履修）すること
<授業の到達目標及びテーマ> 前期と同じ。	
<授業の概要> 後期は、キリスト教倫理の形成について考える。	
<履修条件> 前期と同じ。	
<授業計画> 1. V. 現代的モデル 1) 社会秩序のキリスト教化、2) 超越の倫理学 2. 3) 規範としての愛、4) 弟子の倫理 3. 5) 解放の倫理学 4. 6) 徳と性格、7) 福音派 5. 8) 集約 VI. キリスト教倫理と現代の状況 1) 現代の状況 6. 2) キリスト教倫理と人間の倫理的探求①普遍性・②神の意志・③善・④人間中心性 ・⑤キリスト教による変革 7. 2) キリスト教倫理と人間の倫理的探求⑥自然主義からの脱出・⑦キリスト教倫理の普遍性 3) 共同体に基礎を置くキリスト教倫理学①全体性・②徳 8. 3) 共同体に基礎を置くキリスト教倫理学③潜在的危険・④諸宗教の伝統 ・⑤キリスト教倫理の独自性 9. VII. キリスト教倫理学の基礎 1) 啓示 10. 2) 神学的基礎①神 11. 2) 神学的基礎②人間・③キリスト教的生活の中心・④倫理的生活の方向性 12. VIII. キリスト教倫理の内容——包括的愛 1) キリスト教的な愛の理解の基礎 13. 2) 愛の倫理、3) 愛とキリスト教倫理、4) 愛の倫理とキリスト教共同体 14. おわりに——礼拝と倫理 15. 後期のまとめ	
<準備学習等の指示> 前期と同じ	
<テキスト> なし	
<参考書> 前期と同じ	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題と期末のレポートによる。	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅲ a	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 弁証学とは、教会の信仰にしっかり立ち、福音の真理性を同時代に向かって明証する学問である。伝道するための基礎的な理論を身につける。</p>	
<p><授業の概要> 前期では信仰と理性、信仰と科学、無神論、宗教批判、世俗化論のテーマに取り組む。</p>	
<p><履修条件> 組織神学Ⅰ、Ⅱを履修していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：弁証学の課題と方法について、序論的な考察を行う。</p> <p>第2回：福音と文化の関係について考察する。</p> <p>第3回：信仰と理性の関係について考察する。</p> <p>第4回：知解を求める信仰について考察する。</p> <p>第5回：信仰と科学をめぐって、T.F.トーランスの見解を考察する。</p> <p>第6回：信仰と科学をめぐって、A.マクグラスの見解を考察する。</p> <p>第7回：無神論の立場からなされた宗教批判を考察する。</p> <p>第8回：神学的な立場からなされた有神論批判を考察する。</p> <p>第9回：カール・バルトの宗教批判を考察する。</p> <p>第10回：預言者的な立場からなされた宗教批判を考察する。</p> <p>第11回：ゴーガルテンとコックスの世俗化論を考察する。</p> <p>第12回：T.ルックマンの世俗化論を考察する。</p> <p>第13回：P.バーガーの世俗化論を考察する。</p> <p>第14回：レーヴィット、ブルーメンベルクの近代化論を考察する。</p> <p>第15回：これまでの議論を総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> ノートを取って、よく復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 授業の中で指示する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席を重視する。総括としてレポートをまとめてもらう。</p>	

専門教育科目・組織神学関係	
組織神学Ⅲ b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 弁証学とは、教会の信仰にしっかり立ち、福音の真理性を同時代に向かって明証する学問である。伝道するための基礎的な理論を身につける。</p>	
<p><授業の概要> 後期では宗教的多元主義、多元的社会における共同体論、神義論的諸問題のテーマに取り組む。</p>	
<p><履修条件> 組織神学Ⅰ、Ⅱを履修していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：J.ヒック、ベイリー、ランプらの宗教的多元主義を考察する。</p> <p>第2回：宗教的排他主義、包括主義、多元主義を考察する。</p> <p>第3回：宗教的な原理と人格の分離を考察する。</p> <p>第4回：多元主義と A.マッキンタイアの共同体論を考察する。</p> <p>第5回：多元主義と R.ベラーの共同体論を考察する。</p> <p>第6回：多元主義と M.ウォルツァーの共同体論を考察する。</p> <p>第7回：G.ローフィンクと使徒的共同体論を考察する。</p> <p>第8回：パラクレシスと使徒的共同体論を考察する。</p> <p>第9回：神義論的問いを神学的に取り扱う方法論を考察する。</p> <p>第10回：悪の認識をめぐる問題を考察する。</p> <p>第11回：悪の由来をめぐる問題を考察する。</p> <p>第12回：悪の理由をめぐる問題を考察する。</p> <p>第13回：悪の克服をめぐって、義認論と復活論を考察する。</p> <p>第14回：悪の克服Ⅱをめぐって、聖霊論と終末論を考察する。</p> <p>第15回：これまでの議論を総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> ノートを取って、よく復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 拙著『使徒的共同体』教文館、2004年、拙著『自然、歴史そして神義論』日本基督教団出版局、1991年</p>	
<p><参考書> 授業の中で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席を重視する。総括としてレポートをまとめてもらう。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史 I	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件> 特に無し
<p><授業の到達目標及びテーマ> 古代教会史に関わる事項、人名、著作などの正確な知識を習得するとともに、古代教会史の諸問題を整理して概観できる能力を養う。</p>	
<p><授業の概要> 古代教会史を講義する。基礎的な知識を十分に習得し、同時に歴史史料にあたりながら、古代教会史の理解を深める。</p>	
<p><履修条件> 特に無し</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 古代地中海世界とキリスト教 2 キリスト教のヘレニズム世界への伝播・ローマ帝国とキリスト教 3 使徒教父の時代と初期キリスト教の職制 4 弁証家の著作とロゴス・キリスト論の萌芽 5 グノーシス主義とキリスト教 6 マルキオン、モンタヌス主義との戦い 7 エイレナイオスの神学 8 テルトゥリアヌスとキプリアヌスの神学 9 ロゴス・キリスト論の展開とアレキサンドリア学派 10 クレメンスとオリゲネス 11 キリスト教公認とコンスタンティヌス体制 12 アレイオス主義とキリスト論論争 13 正典形成と制度形成 14 アウグスティヌスの時代と神学 15 事項、人名等についての復習と試験 	
<p><準備学習等の指示> 世界史の知識がない受講生は、木下他『詳説世界史研究』（山川出版社）の古代～中世にかけての記述を読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> 特に定めない。講義のたびにプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> ウォーカー『キリスト教史 I・古代教会』（ヨルダン社） ブロックス『古代教会史』（教文館）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 全講義の出席は大前提。その上で定期試験とレポートによって総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅱ	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 学部3年生が履修することが望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ> 古代末期から中世末期（AD250－1500）までの西欧教会史の概観と意義の解明を目指す。	
<授業の概要> 西欧教会史を、文明世界史的に三期(初期、盛期、後期)に分け「文明の変動」、「国家と教会」および「霊的生活と教理神学」に焦点をしばり概観する。	
<履修条件> 西欧世界史の知識が必要なので、学部3年生以上の履修が望ましい。	
<p><授業計画> これらの学びを通して、実践的には、①カトリック教会、正教会、プロテスタント教会の歴史的一エキュメニカルな関係、②日本の古代・中世文明と西欧中世文明との比較を通して特徴を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コースの紹介、質疑応答。 2. 初期中世（700－1050）：伝道とキリスト教化の時代：（1）文明の変動 3. 同上（2）国家と教会 4. 同上（3）教理神学の形成 5. 同上（4）霊的生活の形成：禁欲運動と修道院運動 6. 盛期中世（1050－1270）：文明の膨張と円熟の時代：（1）文明の変動 7. 同上（2）国家と教会 8. 同上（3）新しい托鉢修道運動や異端運動 9. 同上（4）教理神学全般 10. （5）トマス・アキナスの神学 11. 後期中世（1270－1500）：文明の変動、分裂、改革の時代： <ol style="list-style-type: none"> （1）文明の変動 12. 同上（2）国家と教会 13. 同上（3）教理神学 14. 同上（4）結論：後期中世から宗教改革へ。FD実施。 15. まとめ。 	
<準備学習等の指示> 講義を中心とする。	
<p><テキスト> 棚村重行『現代人のための教理史ガイド』教文館（各自購入） 木下他『詳説世界史研究(増補改訂版)』山川出版（各自購入） プリント（講義担当者が授業毎に用意・配布）</p>	
<参考書> 授業の中で指示する。	
<評価（方法・基準）> a. 定期試験と中間試験の総合評価。b. 出席を重視し1/3以上無断で欠席しないこと。	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅲ	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 学部3年生の履修が望ましい。
<授業の到達目標及びテーマ> 初期近代世界(AD1500-1650)における宗教改革、対抗宗教改革運動の概観と意義を学ぶ。	
<授業の概要> 初期近代西欧文明世界を北・西欧プロテスタント圏、英国圏、カトリック南欧圏に分けて、それら文明の構造の特徴、国家と教会、霊的生活と教理神学のテーマに分けて、宗教改革、対抗宗教改革運動を概観する。	
<履修条件> 世界史の基礎知識を前提とするので、学部3年生以上の履修が望ましい。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コースの紹介と質疑応答。 2. 後期中世西欧文明世界の構造と宗教改革の諸原因について。 3. ドイツ・ルター派宗教改革運動(1):その歴史的環境とルター派の特徴 4. 同上(2):ルターとルター派の霊的生活と神学 5. 同上(3):現代世界と日本におけるルター派の伝統 6. スイス改革派宗教改革運動(1):その歴史的環境と改革派の特徴 7. 同上(3):ツヴィングリと初期スイス改革派運動 8. 同上(4):カルヴァンとスイス改革派運動 9. 同上(5):現代世界と日本における改革・長老派の伝統 10. イングランド宗教改革運動(1):その歴史的環境とその特徴 11. 同上(2):英国国教会とピューリタニズムの霊的生活と神学 および聖公会、ピューリタン諸派系の諸教派 12. カトリック対抗宗教改革運動(1):歴史的環境と運動の特徴 13. 同上(2):霊的生活(イエズス会)トレント公会議の教理神学 および現代のカトリック教会、諸修道会 14. 三十年戦争と盛期近代の開始、FD。 15. まとめ 	
<準備学習等の指示> 講義を中心とした概論コース。	
<p><テキスト> 1. 棚村重行『現代人のための教理史ガイド』教文館。 2. 木下他『詳説世界史研究(増補改訂版)』山川出版社。 3. プリント(配布レジメ、史料集など)。</p>	
<参考書> 授業の中で指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> a. 定期試験と中間試験で評価。b. 1/3以上無断で欠席しないこと。	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅳ	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>特に無し
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>近・現代の教会史に関わる事項、人名、著作などの正確な知識を習得するとともに、近・現代の教会史の諸問題を整理して概観できる能力を養う。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>近・現代の教会史を講義する。基礎的な知識を十分に習得し、同時に歴史史料にあたりながら、近現代の教会史の理解を深める。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特に無し</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近代の思想・哲学とキリスト教 2 イギリスの理神論 3 ドイツ敬虔主義の起源と特色 4 ドイツ敬虔主義の担い手たち 5 アメリカへのキリスト教の移植 6 アメリカの植民市形成 7 イギリスにおけるキリスト教—ウェスレートメソディズム 8 アメリカにおけるキリスト教—大覚醒時代 9 信仰復興運動とその影響、海外伝道 10 ドイツ啓蒙主義と神学思想 11 19世紀のイギリスにおけるキリスト教 12 ニューマンとオックスフォード運動 13 19世紀のアメリカ・プロテスタンティズム 14 エキュメニズムとキリスト教 15 総括と人名、事項関連の試験 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>世界史の知識が不十分なものは、木下他『詳説世界史研究』（山川出版社）の近現代の該当箇所を読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>特に定めないが、その都度プリントを配布する。</p>	
<p><参考書></p> <p>ウォーカー『キリスト教史・近・現代のキリスト教』（ヨルダン社、但し品切）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>全出席を前提として、試験とレポートで総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教会史Ⅴ	小室 尚子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>日本におけるキリスト教宣教開始（16世紀）以来の、教会形成の歴史を学ぶ。異教社会での多くの試練を越えて、教会の活動がどのように展開されて来たのかを学ぶことによって、現代において宣教に遣わされる者が、歴史的視点に立って、何を受け継ぎ、どのように伝えて行くのかの指針を見出すことを目標とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>キリシタンの時代から現代までの教会史／教会と日本の伝統的思想との緊張関係／現代における教会の問題（日本基督教団の問題と課題を中心に）と3つのテーマによって講義を進める。</p>	
<p><履修条件></p> <p>宗教史Ⅱを履修済であることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 序論：教会史を学ぶ意義 第2回 キリスト教伝来前史 第3回 キリシタンの歴史（1549～1873） 第4回 キリシタンの教会形成 第5回 迫害と復活 第6回 プロテスタント・キリスト教の移入と展開 第7回 教会の形成期（1859～1912） 第8回 （1）公会時代とその後 第9回 （2）福音理解 第10回 （3）教育史における貢献と弾圧 第11回 聖書の翻訳 第12回 教会の発展期（1912～1926） 第13回 教会の試練と解放（1926～現代） 第14回 （1）戦時下、日本基督教団の成立 第15回 （2）現代、日本基督教団が抱えた問題と課題</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>鶴沼裕子『史料による日本キリスト教史』聖学院大学出版会 『日本キリスト教史年表[改訂版]』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編 教文館</p>	
<p><参考書></p> <p>初回講義において紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>レポート（期末に提出）によって評価する。 出席が全講義回数の2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
宗教史Ⅰ	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 学部3年生が履修すること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 日本とアジア伝道の推進のためにも、教会史の学びとともに、宗教史の学びがどれほど大切であり、また役に立つかを、世界諸宗教の生活と歴史の検討を通して修得していきたい。</p>	
<p><授業の概要> 本講義の視点である「文明世界史の一宗教史的考察」の方法を明らかにする。続いて、ケース・スタディとして日本を含む現代世界の諸文明と、諸宗教共同体の宗教史的な類型、発展を概観し、21世紀における世界宗教の環境の中でプロテスタント伝道と教会形成の諸課題を明らかにする。</p>	
<p><履修条件> 世界史や教会史の基礎知識が必要とされるので、学部3年以上で履修するのが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スケジュールの紹介、コースにかんする質疑応答。 2. 序論 (1) : 宗教研究の歴史と宗教史理論の紹介と課題の提起を講義により行う。 3. 序論 (2) : 本講義の「文明世界史一宗教史的」視点とはなにかを論じる。 4. 序論 (3) : 国家と宗教の関係についての概念、とくに市民宗教、公民宗教、政治的疑似宗教などの概念の整理を行う。 5. ケース・スタディ (1) : 世界におけるユダヤ教の宗教生活の特徴、歴史を資料と講義でたどる。 6. ケース (2) : 世界におけるギリシア正教とローマ・カトリック教会の性格や歴史をたどる。 7. ケース (3) : 世界におけるキリスト教、とりわけプロテスタント諸教派の歩みをたどる。 8. ケース (4) : 世界におけるイスラム教の宗教生活の特徴や歴史を論じる。 9. ケース (5) : インド文明におけるヒンドゥー教の本質や歴史を紹介し、アジア伝道の課題を論じる。 10. ケース (6) : 南、東アジア文明における仏教の成立と伝播の特徴や歴史をたどる。 11. ケース (7) : 中国文明と諸宗教と題し、中国の伝統的宗教生活とその影響について論じる。 12. ケース (8) : 朝鮮、韓国文明における諸宗教として、とくに仏教、儒教、キリスト教などの展開と現代の韓国宗教事情などを学ぶ。 13. ケース (9) : 日本文明における諸宗教(1)として、とくに「日本教」の生活のなかで神道の伝統を学ぶ。 14. ケース (10) : 日本文明における諸宗教 (2) として、とくに「日本教」内の仏教の土着化と変容の経験を学び、日本伝道の教訓を得たい。FD 実施。 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 1. あらかじめ、テキストを読んでおくこと。2. だが、全体としては復習を重視すること。</p>	
<p><テキスト> 村上重良『世界宗教事典』(講談社学術文庫、2005、第七刷)</p>	
<p><参考書> J. ヴァッハ『宗教の比較研究』渡辺学他訳 (京都:法蔵館、1999)。脇本平也(つねや)『宗教学入門』講談社学術文庫(講談社、2001)。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 1. 期末試験、授業出席などを総合して評価を与える。2. 授業の1/3以上無断で欠席したものは、評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
宗教史Ⅱ	小室 尚子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>宗教史Ⅱでは、日本における諸宗教（とくに古代における宗教形態、神道、仏教、儒教）の、歴史と日本的展開を概説するとともに、16世紀キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また単に、諸宗教の歴史を学ぶにとどまらず、課程修了後には、この日本においてキリスト教宣教の使命を担うことになる学生たちが、宣教活動において直面するであろう諸宗教に裏打ちされた日本の伝統的思想との交渉に、どのように対応していくのかを考え始めることも目標とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>日本における諸宗教の歴史的・日本的展開、およびその内容・形態の概説と、キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また歴史的に培われた日本人の伝統的思想に基づいた現代日本人の宗教観を分析・考察し、福音宣教における諸問題の克服への緒を探る。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：キリスト教受容における（日本人の）問題点 2. 宗教と世界観の関係 3. キリスト教の世界観 4. 日本宗教史概観 5. 日本人のカミ観念の形成 6. 仏教伝来と「神道」 7. 「習合」という形態 8. 日本仏教とその特質 9. 中国の宗教の日本的展開 10. 民衆の宗教と「日本宗教」 11. 日本キリスト教史概説 12. 日本とキリスト教：（1）日本人の精神的伝統とキリスト教 13. 日本とキリスト教：（2）日本的キリスト教 14. 日本におけるキリスト教の土着化の問題：宣教における諸問題 15. まとめ（日本の教会の課題） 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>担当者がプリント教材を用意する。</p>	
<p><参考書></p> <p>初回授業において参考文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>レポート（期末に提出）による評価 出席が全講義回数の2／3に満たないものは評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
実践神学概論 a	山口 隆康
前期・2単位	<登録条件>実践神学概論bとともに通年で登録のこと。
<授業の到達目標及びテーマ> 「伝道論としての実践神学」を講義する。	
<授業の概要> 実践神学基礎論を講義したのち、実践神学の4大領域のうち、説教学を取り扱う。	
<履修条件> 学部最終学年において履修のこと。	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1, 実践神学と召命論 2, 伝道論としての実践神学の構想 3, 伝道論と伝道の幻 4, 伝道論と教会建設 5, 伝道論と証人 6, 伝道論と伝道者論 7, 実践神学基礎論、実践神学とはなにか。 8, 実践神学的思考について 9, 実践神学と教会論 10, 現代説教学概論 11, 現代説教学の歴史 12, 現代説教学の課題 (1) 説教学と言語学 13, 現代説教学の課題 (2) 説教学と修辞学 14, 現代説教学の課題 (3) 説教学と説教者論 15, 現代説教学の課題 (4) 説教学と聴衆論 	
<準備学習等の指示> 教室で配布される資料を丁寧に読むこと。	
<テキスト> 教室で指示する。	
<参考書> 山口隆康著 『アブラハムと実践的神学』(東神大パンフレット) 『伝道の幻に生きる教会の建設』(日本基督教団美竹教会ホームページ) 『21世紀伝道の幻 II 』(日本基督教団玉川平安教会出版部)	
<学生に対する評価(方法・基準)> レポートとメーリングリストにおける発言	

専門教育科目・実践神学関係	
実践神学概論 b	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 礼拝学、牧会学、キリスト教教育学の基礎を扱う。</p>	
<p><履修条件> 学部最終学年において履修のこと。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 礼拝学（その1）礼拝を考える 第2回 礼拝学（その2）1、2世紀の教会の礼拝 第3回 礼拝学（その3）3、4世紀の教会の礼拝 第4回 礼拝学（その4）宗教改革の教会の礼拝 第5回 礼拝学（その5）宗教改革以後の教会の礼拝 第6回 礼拝学（その6）わたしたちの礼拝再考 第7回 牧会学（その1）牧会とは何か 第8回 牧会学（その2）さまざまな牧会の理解 第9回 牧会学（その3）牧会の課題 第10回 牧会学（その4）牧会の場（結婚、病、死別） 第11回 牧会学（その5）牧会の方法（祈り、指導、訪問、手紙） 第12回 牧会学（その6）告解と相互牧会 第13回 牧会学（その7）教会法・戒規 第14回 キリスト教教育学（その1）教育、養育、指導 第15回 キリスト教教育学（その2）さまざまな教育の理解</p>	
<p><準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室でプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> レイモンド・アバ『礼拝 その本質と実際』教団出版局 E. トゥルナイゼン『牧会学 I』教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポートによって評価する。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
キリスト教教育概論 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件> 通年登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教育の歴史と、諸形態と、理論を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 二千年のキリスト教史における種々の教育形態の機能と意義を考察しながら、キリスト教教育の本質と目的を明らかにし、それを今日の教育的業に資するものとしたい。</p>	
<p><履修条件> 特にない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教教育とは何か？ 一般教育との関連と相違 2. キリスト教教育と神学 3. 聖書における「教育」の理解 ― パウロ神学の場合 神学的人間理解に基づくキリスト教教育 4. 原始キリスト教時代-1. 使徒時代 5. 原始キリスト教時代-2. 使徒後時代 6. 古カトリック教会時代 7. 中世の学校：修道院（または僧院）学校（monastic school）、他 8. 中世の教育の特徴としての象徴主義―その意義と問題 9. 近世社会の諸特徴 2) 教育史上の特徴：ルネサンスと宗教改革 10. ルターとカルヴァンの教育思想と実践 4) カトリック教会の教育改革 11. プロテスタンティズムの教育運動 6) 近世後期ヨーロッパのキリスト教 12. 東北アジアのキリスト教教育 13. 現代 14. 現代的人間の特性とキリスト教教育 15. 伝道とキリスト教教育 	
<p><準備学習等の指示> 随時、必要に応じて課題を課す。</p>	
<p><テキスト> 特に指定はせず、その都度プリント配布する。</p>	
<p><参考書> John L. Elis, A History of Christian Education, Florida, 2002 その他、随時、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 定期試験の結果で評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
キリスト教教育概論 b	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件> 通年登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 日本におけるプロテスタント・キリスト教の教会、家庭、学校の歴史的経緯と実態を把握する。</p>	
<p><授業の概要> 日本におけるプロテスタント・キリスト教教育史を概観しつつ、教会、学校、家庭におけるキリスト教教育の意義と課題を明らかにする。</p>	
<p><履修条件> 特になし。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教会学校史(序、第一期～第五期) 2. 教会学校の意義と使命 3. 教会論的基礎づけ 4. キリスト教幼児教育について 5. その歴史的経緯 6. 幼稚園のキリスト教教育 7. 初等・中等教育—公教育の一環としてのキリスト教教育 8. 欧米におけるキリスト教学校の展開、他 9. 大学教育：1) キリスト教大学のヴィジョン 10. 日本の大学の意義と課題 11. 聖書の家庭教育 12. 教会史上の家庭教育 13. 家庭の教育的役割、 14. 家庭のキリスト教教育確立のために 15. キリスト教家庭教育の方策 	
<p><準備学習等の指示> 随時、必要に応じて課題を課す。</p>	
<p><テキスト> 『日本における教会教育の歩み』(1858～2006)、NCC 教育部歴史編纂委員会編、教文館、2007年、(5月発行) 各自注文して用意すること。</p>	
<p><参考書> 随時、授業の中で諸資料を紹介していく。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 定期試験の結果で評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・学部演習	
旧約聖書学部演習 a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件> 通年登録
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書学の基本的な知識を習得し、聖書学的に考える訓練をする。</p>	
<p><授業の概要> 旧約聖書学の基本的書物を読み、知識を整理する。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語Ⅰを履修済みまたは並行して履修中であること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「旧約聖書とは何か」 3. 「旧約聖書の世界」 4. 「民の選びの歴史」 5. 「試練と摂理」 6. 「終わり・黙示・メシア」 7. 「男と女」「親と子」 8. 「友情・兄弟」「隣人・外国人・敵」 9. 「罪の赦しに生きる人」「神に問う人」 10. 「神を賛美する人」 11. 「自然と人間」 12. 「契約と法」 13. 「預言者の現実批判」 14. 「戦争と平和」 15. 「研究史・文献紹介」 	
<p><準備学習等の指示> 毎回、内容を要約してレポートしていただき、皆で議論する。</p>	
<p><テキスト> 並木浩一／荒井章三編『旧約聖書を学ぶ人のために』（世界思想社）2012年を用いる。担当者が用意する。</p>	
<p><参考書> その都度、指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席が3分の2に満たない者は評価の対象にしない。積極的に授業に参加していただき、発表の内容で評価。</p>	

専門教育科目・学部演習	
旧約聖書学部演習 b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件> 通年登録
<p><授業の到達目標及びテーマ> ヘブライ語原典を読んで積義し、積義論文を作成する。</p>	
<p><授業の概要> ヨブ記 42 章 I -6 節を原典で読み、また注解書を読み比べる。</p>	
<p><履修条件> 学部 4 年で旧約専攻あるいは希望者。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ヨブ記 42 章 1 節を原典で読む 3. ヨブ記 42 章 2 節を原典で読む 4. ヨブ記 42 章 3 節を原典で読む 5. ヨブ記 42 章 4 節を原典で読む 6. ヨブ記 42 章 5 節を原典で読む 7. ヨブ記 42 章 6 節を原典で読む 8. 代表的な日本語注解書を読む (A T D) 9. 代表的な日本語の注解書を読む (関根注解、ゴルデイス) 10. 代表的な日本語の論文を読む (並木浩一) 11. 外国語の注解書を読む 1. (OTL) 12. 外国語の注解書を読む 2. (WBC) 13. 積義論文の書き方指導 14. 論文の発表 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 毎回予習すること。</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)とヘブライ語辞典 (B D B) を各自購入すること。</p>	
<p><参考書> その都度、指示する。</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) > 出席が 3 分の 2 に満たない者は評価の対象にしない。積義論文を提出していただき、それによって評価する。</p>	

専門教育科目・学部演習	
新約聖書学部演習 a	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ>後期に学部論文を書くことを念頭に、新約聖書学の研究書を読む。テキストの内容と共に新約聖書学の議論の仕方を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要>テキストを分担して読む。担当を決め、発表と議論によって理解を深める。</p>	
<p><履修条件>学部4年の新約専攻および他専攻で希望する学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 『イエスの死』 一章 「イエスの死をめぐる議論」 総論 3. 『イエスの死』 一章 「イエスの死をめぐる議論」 研究史 4. 『イエスの死』 一章 「イエスの死をめぐる議論」 批判的検討 5. 『イエスの死』 二章 「犠牲の子羊イエス」 6. 『イエスの死』 三章 「契約の犠牲」 7. 『イエスの死』 四章 「ローマ3：26」 8. 『イエスの死』 五章 「罪祭」 9. 『イエスの死』 六章 「我らのためのイエスの死」 10. 『イエスの死』 七章 「イエスの犠牲死」 11. 『イエスの死』 八章 「請け出し」 12. 『イエスの死』 九章 「密儀宗教における死との比較」 13. 『イエスの死』 十章 「罪責証書からの解放」 14. 『イエスの死』 十一章 「和解」 15. 総括 <p>ただし、担当者の関心によって適宜調整する</p>	
<p><準備学習等の指示>担当箇所を発表し、また他の学生の発表を聞いて議論に参加するために準備をしてくること。</p>	
<p><テキスト>フリートリッヒ『イエスの死』日本基督教団出版局、1987年。絶版のため古本等を入手することを勧める。入手不可能なときは担当者が準備する。</p>	
<p><参考書>適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>出席状況、授業参加、期末の課題によって総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・学部演習	
新約聖書学部演習 b	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ>学部論文作成。	
<授業の概要>論文の書き方、形式を学び、学部論文を作成する。	
<履修条件>学部4年新約専攻の学生。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 積義ステップ1, 2 3. 積義ステップ3 4. 積義ステップ4 5. 積義ステップ5 6. 積義ステップ6 7. 積義ステップ7 8. 積義ステップ8 9. 積義ステップ9-13 10. 積義レポート作成 11. テーゼを決定 12. 論文の中間報告と議論 13. 論文の議論の組み立ての見直し 14. 論文形式の見直し 15. 論文提出 	
<準備学習等の指示>クラスでテキストに従い積義を進めつつ、各自論文のテーマを決め、論文を作成する。各自積義し、授業で積義の成果を議論し合う。そのために準備し参加すること。	
<テキスト>G.D. フィー『新約聖書の積義』教文館、1983年。各自準備すること。	
<参考書>適宜紹介する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>授業参加、論文作成のプロセス、論文によって総合的に評価する。	

専門教育科目・学部演習	
組織神学学部演習 a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>組織神学学部演習 b と通年で履修・登録することを原則とする
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学的に考え、叙述する技法を身に着けること。</p>	
<p><授業の概要> 後期における卒業論文作成の準備。</p>	
<p><履修条件> 学部4年生で卒業を予定している者。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 「パラグラフ」の書き方①：パラグラフとは何か 第3回 「パラグラフ」の書き方②：パラグラフを書くための基礎知識 第4回 「パラグラフ」の書き方③：パラグラフを書いてみる 第5回 卒業論文の主題について（各自による発表） 第6回 小レポートの作成①：資料を読む 第7回 小レポートの作成②：要約する 第8回 小レポートの作成③：構想を練る 第9回 卒業論文の主題と文献について（各自による発表） 第10回 小レポートの作成④：註と文献表の書き方 第11回 小レポートの作成⑤：提出されたものの検討（数名ずつ） 第12回 小レポートの作成⑥：同上 第13回 卒業論文主題の最終決定（各自による発表：数名ずつ）① 第14回 同上② 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 課題をきちんとやってくること。</p>	
<p><テキスト> 泉忠司、『90分でコツがわかる！ 論文&レポートの書き方』（青春出版社）</p>	
<p><参考書> 必要に応じて、授業中に指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の課題によって評価する。</p>	

専門教育科目・学部演習	
組織神学学部演習 b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>組織神学学部演習 a と通年で履修・登録することを原則とする
<授業の到達目標及びテーマ> 学部卒業論文の作成。	
<授業の概要> 受講者を三つのグループに分け、順に中間発表を重ねながら、卒業論文を作成する。	
<履修条件> 前期と同じ。	
<授業計画> 第一サイクル（文献表・主要文献の内容概観の発表） 第1回 第1グループのメンバー各自の発表 第2回 第2グループのメンバー各自の発表 第3回 第3グループのメンバー各自の発表 第二サイクル（1,000字程度を執筆してくる） 第4回 第1グループのメンバー各自の発表 第5回 第2グループのメンバー各自の発表 第6回 第3グループのメンバー各自の発表 第三サイクル（2,000字程度を執筆してくる） 第7回 第1グループのメンバー各自の発表 第8回 第2グループのメンバー各自の発表 第9回 第3グループのメンバー各自の発表 第四サイクル（3,000字程度を執筆してくる） 第10回 第1グループのメンバー各自の発表 第11回 第2グループのメンバー各自の発表 第12回 第3グループのメンバー各自の発表 第五サイクル（4,000字程度を執筆してくる） 第13回 第1グループのメンバー各自の発表 第14回 第2グループのメンバー各自の発表 第15回 第3グループのメンバー各自の発表	
<準備学習等の指示> 論文作成に積極的に取り組むこと。	
<テキスト> (なし)	
<参考書> (なし)	
<学生に対する評価（方法・基準）> 最終的に提出された卒業論文によって評価する。	

専門教育科目・学部演習	
歴史神学学部演習 a	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<授業の到達目標及びテーマ> 一次史料、二次史料の読み方、歴史神学方法論を修得することを目標とする。	
<授業の概要> 歴史神学の学問研究のために必要な基礎概念、史料の扱い方、論文作成の方法等を学ぶ。テキストを割り当てて発表して内容をつかむ。各自の発表やクラスでの貢献を重視する。	
<履修条件> 特になし	
<授業計画> I 歴史神学の論文を書くための基礎知識 1 歴史神学とは 2 一次史料と二次史料 テキスト発表① 3 一次史料を読む テキスト発表② 4 一次史料を読む テキスト発表③ 5 二次史料を読む テキスト発表④ 6 二次史料を読む テキスト発表⑤ 7 歴史神学論文を読む テキスト発表⑥ 8 歴史神学論文を読む テキスト発表⑦ II 学部論文作成 9 作成の注意と準備 10 論文の計画と執筆、注のつけ方 11 論文計画発表① 12 論文計画発表② 13 論文計画発表③ 14 ディカッション 15 まとめ	
<準備学習等の指示> 特になし	
<テキスト> 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫 153） テキストは、各自購入しておくこと。	
<参考書> その都度指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 分担発表とクラスでの討議の貢献度、レポート、出席状況によって総合的に評価する。	

専門教育科目・学部演習	
歴史神学学部演習 b	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>歴史神学学部演習 a を履修していること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 一次史料、二次史料の読み方、歴史神学方法論を修得することを目標とするとともに、日本の教会史を讀み的確に評価する力をつける。</p>	
<p><授業の概要> 歴史神学の学問研究のための実践的な研究を行う。また将来牧師として関わるであろう教会史を執筆することを想定して、各個教会史を讀み、論評するという実践的準備も兼ねる。最後に学部論文作成を行う。各自の発表やクラスでの貢献を重視する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>I 歴史神学の論文を書くための実践的研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史神学と歴史学の流れ講義 2 論文作成の用いる一次史料と二次史料の内容紹介と分析 3 一次史料を讀む 内容紹介と評価 4 二次史料を讀む 内容紹介と評価 5 歴史神学論文を書く I 論文の構想と参考文献 6 歴史神学論文を書く II 目次と主題 <p>II 教会史を書くための実践的研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 各個教会史を讀む 発表 i 8 各個教会史を讀む 発表 ii 9 各個教会史を讀む 発表 iii 10 その批判的検討 11 教会史と日本の教会の諸問題・教会の制度と神学 12 教会史を書く 13 論文中間発表 i 14 論文中間発表 ii 15 まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 特になし</p>	
<p><テキスト> 引き続き澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫 153）を用いる。</p>	
<p><参考書> その都度指示する</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 分担発表とクラスでの討議の貢献度、レポート、出席状況によって総合的に評価する。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・聖書 I	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ>新約聖書学の研究書を読む力を養う。	
<授業の概要>授業では各自あらかじめ準備した日本語訳を検討し合う。	
<履修条件>英語Ⅱ履修済みか同程度の英語読解力のレベルの学生が履修するのが望ましい。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (英和辞書持参のこと) 2. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 1 3. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 2 4. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 3 5. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 4 6. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 5 7. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 6 8. 1-7回までのまとめ 9. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 7 10. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 8 11. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 9 12. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 10 13. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 11 14. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians p. 12 15. テキスト 第一章 Paul and the Corinthians まとめ <p>進度は受講者の関心によって適宜調整する。</p>	
<準備学習等の指示>毎授業講読担当箇所を指定するので、各自あらかじめ日本語訳を準備の上で出席のこと。	
<テキスト> Victor Furnish, <i>The Theology of the First Letter to the Corinthians</i> , Cambridge: Cambridge University Press, 1999. 初回の授業時に配布する。	
<参考書>英和辞書、英文法書は各自使いやすいものを選び準備する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>出席状況、授業参加、中間、期末の課題を総合的に評価する。	

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・聖書Ⅱ	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ>前期に引き続いて新約聖書学の研究書を読む力を養う。	
<授業の概要>授業では各自あらかじめ準備した日本語訳を検討し合う。	
<履修条件>英語Ⅱ履修済みか同程度の英語読解力のレベルの学生が履修するのが望ましい。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (英和辞書持参のこと) 2. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 13 3. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 14 4. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 15 5. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 16 6. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 17 7. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 18 8. 1-7回のまとめ 9. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 19 10. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 20 11. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 21 12. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 22 13. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 23 14. テキスト第一章 Approaching I Corinthians, p. 24 15. 9-14回のまとめ <p>進度は受講者の関心によって適宜調整する。</p>	
<準備学習等の指示>毎授業講読担当箇所を指定するので、各自あらかじめ日本語訳を準備の上で出席のこと。	
<テキスト>Victor Furnish, <i>The Theology of the First Letter to the Corinthians</i> , Cambridge: Cambridge University Press, 1999. 初回の授業時に配布する。	
<参考書>英和辞書、英文法書は各自使いやすいものを選び準備する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>出席状況、授業参加、中間、期末の課題を総合的に評価する。	

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・聖書 I	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書学論文においても、ドイツ語だからできる議論があり、また、もちろん議論がドイツ語の制約を受ける場合がある。ドイツ語で書かれた聖書学論文を読むという体験を共有したい。</p>	
<p><授業の概要> Rainer Kessler, Benennung des Kindes durch die israelitische Mutter, Wort und Dienst, NF19, 1987, 25-35. を読む。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序 2. I pp.25-27 3. I I - 1 pp.27-28 4. I I - 2 pp.28-29 5. I I - 3 pp.29-30 6. I I I - 1 p.30 7. I I I - 2 p.30 8. I I I - 3 pp.30-31 9. I I I - 3 - 2 pp.31-32 10. I I I - 3 - 3 pp.32-33 11. I I I - 4 p.33 12. I I I - 4 - 2 pp.33-34 13. I V - 1 p.34 14. I V - 2 pp.34-35 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 取り扱う箇所を出来る限り正確に和訳して授業に臨むこと</p>	
<p><テキスト> 授業に関係する箇所のコピーを第一回授業時に配付する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎回準備した翻訳を発表する。その内容によって成績をつける。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・組織 I	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>特になし。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>①特に組織神学の分野における英語の語彙を獲得すること、②組織神学的思考を身に着けること、③英語読解力の向上。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>ロヴィンによる第一次と第二次の世界大戦の間に登場したキリスト教倫理についての研究を学ぶ。一人ずつあてて、訳してもらう。今回はブルンナーを取り上げる。</p>	
<p><履修条件></p> <p>英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト pp. 45-47。 第3回 同 pp. 47-49。 第4回 同 pp. 49-51。 第5回 同 pp. 51-52。 第6回 同 pp. 53-55。 第7回 同 pp. 55-57。 第8回 同 pp. 57-59。 第9回 同 pp. 59-61。 第10回 同 pp. 61-63。 第11回 同 pp. 63-65。 第12回 同 pp. 65-67。 第13回 同 pp. 67-69。 第14回 同 pp. 69-71。 第15回 同 pp. 71-73。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>予習してくること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Robin W. Lovin, <i>Christian Faith and Public Choices</i> (Philadelphia: Fortress Press, 1984), pp. 45-73. (担当者が用意する)</p>	
<p><参考書></p> <p>(特になし)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>三分の二以上の出席を前提として、授業中の和訳の出来と毎回の小テストによって評価する(各50%)。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
英語神学書講読・組織Ⅱ	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>特になし。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>①特に組織神学の分野における英語の語彙を獲得すること、②組織神学的思考を身に着けること、③英語読解力の向上。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>ロヴィンによる第一次と第二次の世界大戦の間に登場したキリスト教倫理についての研究を学ぶ。一人ずつあてて、訳してもらう。今回は理性の問題を扱う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト pp. 76-77。 第3回 同 pp. 77-79。 第4回 同 pp. 79-81。 第5回 同 pp. 81-83。 第6回 同 pp. 83-85。 第7回 同 pp. 85-87。 第8回 同 pp. 87-89。 第9回 同 pp. 89-91。 第10回 同 pp. 91-93。 第11回 同 pp. 93-95。 第12回 同 pp. 95-97。 第13回 同 pp. 97-99。 第14回 文法に関する復習・まとめ 第15回 キリスト教倫理における理性の問題についてのまとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>予習してくること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Robin W. Lovin, <i>Christian Faith and Public Choices</i> (Philadelphia: Fortress Press, 1984), pp. 76-99. (担当者が用意する)</p>	
<p><参考書></p> <p>(特になし)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>三分の二以上の出席を前提として、授業中の和訳の出来と毎回の小テストによって評価する(各50%)。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・組織 I	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件>学期ごとの登録可
<p><授業の到達目標及びテーマ> 原典に直接触れながら、ドイツ語の神学書を読んで正確に理解する訓練を行う。</p>	
<p><授業の概要> Heinz Zahrnt, Wie kann Gott das zulassen? Hiob - Der Mensch im Leid, München Zürich 1986 を丁寧に読みながら、ヨブ記の提起している神義論的な問題を組織神学的に追求する。</p>	
<p><履修条件> ドイツ語の基本文法を一応終えていること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：主題について、またテキストについての解題を行う。</p> <p>第2回：テキストの 9-11 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第3回：テキストの 12-14 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第4回：テキストの 15-17 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第5回：テキストの 18-20 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第6回：テキストの 21-23 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第7回：テキストの 24-26 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第8回：テキストの 27-29 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第9回：テキストの 30-32 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第10回：テキストの 33-35 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第11回：テキストの 36-38 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第12回：テキストの 39(40)-42 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第13回：テキストの 43-45 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第14回：テキストの 46-48 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第15回：テキストの 49-51 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 辞書をよく引いて、不明な単語がないようにしておくこと。</p>	
<p><テキスト> Heinz Zahrnt, Wie kann Gott das zulassen? Hiob - Der Mensch im Leid, München Zürich 1986 担当者が用意する。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での読解作業を評価する。</p>	

専門教育科目・神学書講読	
独語神学書講読・組織Ⅱ	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件>学期ごとの登録可
<p><授業の到達目標及びテーマ> 原典に直接触れながら、ドイツ語の神学書を読んで正確に理解する訓練を行う。</p>	
<p><授業の概要> Heinz Zahrnt, Wie kann Gott das zulassen? Hiob - Der Mensch im Leid, München Zürich 1986 を丁寧に読みながら、ヨブ記の提起している神義論的な問題を組織神学的に追求する。</p>	
<p><履修条件> ドイツ語の基本文法を一応終えていること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：テキストの 52-54 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第2回：テキストの 55-57 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第3回：テキストの 58-60 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第4回：テキストの 61-63 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第5回：テキストの 64-66 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第6回：テキストの 67-69 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第7回：テキストの 70-72 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第8回：テキストの 73-75 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第9回：テキストの 76-78 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第10回：テキストの 79-81 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第11回：テキストの 82-84 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第12回：テキストの 85-87 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第13回：テキストの 88-90 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第14回：テキストの 91-93 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第15回：テキストの 94-96 頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 辞書をよく引いて、不明な単語がないようにしておくこと。</p>	
<p><テキスト> Heinz Zahrnt, Wie kann Gott das zulassen? Hiob - Der Mensch im Leid, München Zürich 1986 担当者が用意する。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での読解作業を評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅳ	左近 豊
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書に見出される神学思想の現代的意義について考察する。特に旧約聖書の「嘆き」に注目し、教会の礼拝、牧会、祈り、霊的生活において、旧約聖書神学的視座に立った思索を身につけることを目的とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>危機の時代に発せられた言葉として旧約詩編、哀歌等を取り上げ、参照すべき聖書テキストを文芸学的手法を用いて分析し、その様式や語り口の特徴を理解し、現代の危機に向けて教会が語るべき言葉を探求する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、序 課題の設定：現代の教会に仕える私たちが、旧約聖書に問い、また逆に問われている問題、特に「嘆き」に注目し、授業全体の課題を設定する。 2、旧約聖書と現代（1）：現代を旧約聖書神学的視点から考察する。 3、旧約聖書と現代（2）：東日本大震災後を旧約聖書神学的視点から考察する。 4、証言としての旧約聖書：旧約聖書の証言性に注目し、「嘆き」を通して証しされる神、信仰共同体、歴史について考察する。 5、旧約聖書 嘆きの詩編（1）：「個人の嘆きの詩」を取り上げ、その様式と内容について考察する。 6、旧約聖書 嘆きの詩編（2）：「共同体の嘆きの詩」を取り上げ、その様式と内容について考察する。 7、旧約聖書 嘆きの詩編（3）：「嘆きの詩編」の神学的主題について考察する。 8、旧約聖書 エレミヤ書：「エレミヤ書」の嘆きの様式と内容について考察する。 9、旧約聖書 哀歌（1）：「哀歌」の様式と内容について考察する。 10、旧約聖書 哀歌（2）：「哀歌」の神学的主題について考察する。 11、信仰共同体の歴史における嘆き（1）：ユダヤ教ラビ文献における哀歌解釈について考察する。 12、信仰共同体の歴史における嘆き（2）：アウシュヴィッツ後の哀歌解釈について考察する。 13、十字架の金曜日と復活の主日の間：土曜日の神学を探求し、嘆きの礼拝学的意味を考察する。 14、現代の嘆きの詩：現代における旧約詩編の展開例として数名の信仰詩人の詩を取り上げて考察する。 15、総括 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>各授業で挙げられる参考文献に事前に目を通しておくとよい。</p>	
<p><テキスト></p> <p>聖書。その他授業の中で指示する。</p>	
<p><参考書></p> <p>各回レジュメに参考文献を挙げる。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業への参加を重視し、期末レポートによって評価する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
ヒブル語 I (1,2)	本間 敏雄
前期・4単位	<登録条件> 通年 (I、II) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> テーマ：聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。 目標：平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。</p>	
<p><授業の概要> 基礎文法の説明、練習問題、小テスト マソラ本文の入門的事柄</p>	
<p><履修条件> ヒブル語 II と通年で履修すること。原則として学部 4 年生。 旧約専攻者は必修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 課 ヒブル語とは、文字 (アルファベット) 2) 1 課 文字の書き方、写字練習 3) 2 課 母音記号 4) 3、4 課 音節、Shewa、母音文字、Mappiq 5) 5、6 課 Dagesh、Rafe、母音の分類と変化 6) 7、8 課 喉音、アクセント等諸記号、Ketib・Qere 7) 9 課 定冠詞、形容詞(1)、接続詞 8) 9 課 (2) 9) 10 課 人称・指示代名詞 (Pronoun)、関係代名詞(1)、疑問詞 10) 11 課 前置詞 (Preposition)、目的辞 (nota accusativi) 11) 11 課 (2) 人称代名詞語尾(Suffix)(1)：前置詞、目的辞付加形 12) 12 課 動詞：完了態 (Perfect) 13) 13 課 未完了態 (Imperfect) 14) 14 課 願望形 (Jussive, Cohortative) 継続ウァウ (Waw Consecutive)、従属ウァウ 15) 14 課 (2) 16) 15 課 命令形 (Imperative)、不定詞 (Infinitive)、分詞 (Participle) 17) 15 課 (2) 18) 16 課 状態動詞 19) 17 課 名詞：語形変化、分類、独立形と合成形 (Construct state) 形容詞(2) 20) 17 課 (2) 21) 18 課 名詞の変化 (第一類)、不規則変化名詞 22) 18 課 (2) 23) 19 課 名詞の変化 (第二類)、副詞と形成接辞、所有 24) 20 課 名詞の変化 (第三、第四、第五類)、名詞形成と接辞 25) 21 課 人称代名詞語尾(2)-I：名詞の～ 26) 21 課 I (2) 27) 21 課 人称代名詞語尾(2)-II：動詞の～ 28) 21 課 II (2) 29) 全体復習 30) 総まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 予習大切。</p>	
<p><テキスト> 「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近/本間)</p>	
<p><参考書> J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) > 筆記試験、授業参加状況、小テスト等で総合的に判断する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
ヒブル語Ⅱ	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件> 通年（Ⅰ、Ⅱ）の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> テーマ：聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。 到達目標：平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。</p>	
<p><授業の概要> 基礎文法の説明 練習問題、小テスト マソラ本文の入門的事柄</p>	
<p><履修条件> ヒブル語Ⅰと通年で履修すること。原則として学部4年生。 旧約専攻者は必修。</p>	
<p><授業計画> 前期より継続</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 22 課 動詞の語幹及び基本語幹：Qal, Nifal 2) 23 課 強意語幹：Piel, Pual, Hithpael (1) 3) 23 課 (2) 4) 24 課 使役語幹：Hifil, Hofal (1) 5) 24 課 (2) 6) 25 課 不規則動詞：Pe 喉音動詞 7) 26 課 Ayin 喉音、Pe 喉音動詞、関係代名詞(2) 8) 27 課 二重 Ayin 動詞、二根字動詞 9) 28 課 数詞、所有表記 10) 29 課 弱 Pe 動詞(1)：Pe Alef、Pe Nun 動詞 11) 30 課 弱 Pe 動詞(2)：Pe Waw、Pe Yod 動詞 12) 30 課 (2) 13) 31 課 弱 Lamed 動詞：Lamed Alef、Lamed He 動詞 14) 32 課 二重弱動詞 15) 総まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 予習大切</p>	
<p><テキスト> 「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近/本間）</p>	
<p><参考書> J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 筆記試験、授業参加状況、小テスト等で総合的に判断する。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
シリア語 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の古代訳の一つであるペシッタ（シリア語訳）を読むことは、聖書の原典との比較によって、聖書解釈に大きな意味を持って来る。この授業ではペシッタを読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> ペシッタを読むために必要なシリア語の文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：序 シリア語を学ぶ意義を話し、子音について（1）ヤコブ派の書体を学ぶ。</p> <p>第2回：子音について（2） ネストリウス派とエストラングラの書体を学ぶ。</p> <p>第3回：母音について ヤコブ派とネストリウス派の母音記号を学ぶ。</p> <p>第4回：代名詞について 人称・指示・疑問・関係代名詞を学ぶ。</p> <p>第5回：前置詞について 基本的なものをいくつか学ぶ。</p> <p>第6回：名詞について（1） 基本的な名詞について、ヘブライ語との比較をしつつ、その特徴を学ぶ。</p> <p>第7回：代名詞語尾について ヘブライ語と同様にシリア語も名詞等に代名詞語尾がつくことを学ぶ。</p> <p>第8回：名詞について（2） 母音の移動を伴うものを学ぶ。</p> <p>第9回：名詞について（3） 不規則変化するものを学ぶ。</p> <p>第10回：規則動詞について（1） Peal 形の変化、特に完了を学ぶ。</p> <p>第11回：規則動詞について（2） Peal 形の変化、特に未完了・命令・分詞・不定詞を学ぶ。</p> <p>第12回：規則動詞について（3） Ethpeel 形の変化を学ぶ。</p> <p>第13回：規則動詞について（4） Pael 形と Ethpael 形の変化を学ぶ。</p> <p>第14回：規則動詞について（5） Aphel 形と Ettaphal 形の変化を学ぶ。</p> <p>第15回：規則動詞について（6） 代名詞語尾のついた形の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3rd. ed., Oxford University Press, London, 1949.</p>	
<p><参考書> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
シリア語 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の古代訳の一つであるペシッタ（シリア語訳）を読むことは、聖書の原典との比較によって、聖書解釈に大きな意味を持って来る。この授業ではペシッタを読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> シリア語の文法の学びを継続する。その後に講読に入るが、まず新約からマタイによる福音書の「山上の説教」、さらに旧約からエレミヤ書をペシッタで読む。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであること並びにシリア語 a 履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：不規則動詞について（1） Pê Nun 動詞の変化を学ぶ。 第2回：不規則動詞について（2） Lamed 喉音動詞の変化を学ぶ。 第3回：不規則動詞について（3） Pê 'alep 動詞の変化を学ぶ。 第4回：不規則動詞について（4） Pê Yöd 動詞の変化を学ぶ。 第5回：不規則動詞について（5） 二根字動詞の変化を学ぶ。 第6回：不規則動詞について（6） 二重`ayin 動詞の変化を学ぶ。 第7回：不規則動詞について（7） Lamed Hê・Lamed Yöd 動詞の変化を学ぶ。 第8回：「山上の説教」の講読（1） Jennings の辞書を引きながら、ペシッタを読むことに慣れる。 第9回：「山上の説教」の講読（2） 原典との比較をしつつ読むことを味わう。 第10回：「山上の説教」の講読（3） シリア語文法、特に不規則変化する名詞を確認しつつ読む。 第11回：「山上の説教」の講読（4） シリア語文法、特に動詞の変化を確認しつつ読む。 第12回：「山上の説教」の講読（5） シリア語が解釈に影響を与えている一例について話す。 第13回：エレミヤの講読（1） ネストリウス派の書体・母音記号で読むことに慣れる。 第14回：エレミヤの講読（2） シリア語文法を全体的に思い出しつつ読む。 第15回：エレミヤの講読（3） 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3rd. ed., Oxford University Press, London, 1949.</p>	
<p><参考書> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
イスラエル古代史	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 最近の歴史学と考古学の成果を学びつつ、旧約聖書のコンテキストである歴史について基本的知識を得る。</p>	
<p><授業の概要> イスラエル古代史において、決定的な意味を有する出来事を幾つか学び、さらにそれらに関する研究文献をも紹介して現在の研究状況を解説する。</p>	
<p><履修条件> 学部1年次に2010年度以降入学した者、および学部3年次に2012年度以降編入学した者が、3・4年次に履修できる。大学院生による科目等履修も可能。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「始まり」：地理的・歴史的前提、旧約伝承の信頼性 2. 「族長」：その信憑性をめぐって 3. 「出エジプト」：どこまで歴史的か 4. 「土地取得」：取得か征服か、農民革命か経済変動か 5. 「士師時代」：アンフィクチオニーとは、イスラエルとは 6. 「士師時代から王制へ」：なぜ王国となったか、王国は初めから一つであったか 7. 「北王国とその滅亡」：北王国とは何か、サマリヤの起源 8. 「南王国とその滅亡」：ダビデ王朝の基盤 9. 「アッシリアとバビロニア」：二つの大国の意義 10. 「バビロン捕囚期」：捕囚期とはどういう時代であったか 11. 「バビロン捕囚の意味と意義」：捕囚によって何がどう変わったか 12. 「ペルシア時代」：ユダヤ教団の成立、ユダヤ教とは何か 13. 「ヘレニズム時代」：マカベヤ戦争はなぜ起きたか 14. 「ユダヤ戦争まで」：後期ユダヤ教か、初期ユダヤ教か 15. 「旧約聖書のイスラエル」と「現在のイスラエル」は直結するか 	
<p><準備学習等の指示> 教科書をよく読むこと。また第I回授業の中で紹介された文献も読むことを勧める。</p>	
<p><テキスト> 新共同訳聖書のほか、S.ヘルマン/W.クライバー（樋口訳）『よくわかるイスラエル史ーアブラハムからバル・コクバまで』（教文館）、1600円を用いる。</p>	
<p><参考書> 第I回授業で文献を紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と期末レポートで評価する。3分の1以上欠席した者はレポートを提出できない。</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅳ	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ>新約聖書の書簡、黙示録を学ぶ。	
<授業の概要>各文書の緒論、神学的課題を講義形式で学ぶ。	
<履修条件>新約聖書神学Ⅲ、ギリシア語履修済みが望ましい。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パウロ真正書簡概観 2. コリントの信徒への手紙二 3. ローマの信徒への手紙 総論 4. ローマの信徒への手紙 詳論一律法について 5. ガラテヤの信徒への手紙 6. テサロニケの信徒への手紙一（一との関連で二） 7. フィリピの信徒への手紙、フィレモンへの手紙 8. 真正書簡総括 9. コロサイ、エフェソの信徒への手紙 10. テモテへの手紙一、二、テトスへの手紙 11. ヘブライ人への手紙 12. ヤコブの手紙、ペトロの手紙一、二、三 13. ヨハネの手紙一、二、三、ユダの手紙 14. ヨハネの黙示録 15. 総括 	
<準備学習等の指示>当日の聖書箇所を読んで出席すること。	
<テキスト>聖書。	
<参考書>適宜紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況、授業参加、中間、期末の課題によって総合的に評価する。	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約原典講読Ⅰ	三永 旨従
前期・2単位	<登録条件>Ⅱと通年での登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 編集史批判の立場から共観福音書の各文書の特徴を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 新約聖書における編集史批判の重要性を示した文献を読んだ後、各文書の文体的特徴及び文法を重視しつつ、講読の基礎を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ギリシャ語1、2を修得済みの者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 辞書、コンコーダンスの用法について 2. "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.52-54 3. "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.54-57 4. 「嵐を鎮める」読解（マルコ） 5. 「嵐を鎮める」読解（マタイ） 6. 「嵐を鎮める」読解（ルカ） 7. 「ゲッセマネの祈り」読解（マルコ） 8. 「ゲッセマネの祈り」読解（マタイ） 9. 「ゲッセマネの祈り」読解（ルカ） 10. 「十字架」読解（マルコ） 11. 「十字架」読解（マタイ） 12. 「十字架」読解（ルカ） 13. 「ガリラヤ宣教」読解（マルコ） 14. 「ガリラヤ宣教」読解（マタイ） 15. 「ガリラヤ宣教」読解（ルカ） 	
<p><準備学習等の指示> 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・"The Stilling of The Storm in Matthew" G. Bornkamm in <u>Tradition & Interpretation in Matthew</u>, G. Bornkamm, G. Barth, H.J. Held (1960) ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27版) に基づいた対観福音書（授業にて紹介） ・"A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers" W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd. (各自で購入することを強く勧める。) 	
<p><参考書> ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの参加あるいは試験による評価</p>	

専門教育科目・聖書神学関係	
新約原典講読Ⅱ	三永 旨従
後期・2単位	<登録条件> 通年での登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 前期に学んだ共観福音書の各文書の文体的特徴をふまえた上で、さらに各文書をギリシャ語で読むことの意味を問う。</p>	
<p><授業の概要> 前期とは別の聖書箇所における各文書の文体的特徴及び、文法を重視しながら理解を深める。</p>	
<p><履修条件> ギリシャ語1、2を修得済みの者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「盲人の癒し」読解（マルコ） 2. 「盲人の癒し」読解（マタイ） 3. 「盲人の癒し」読解（ルカ） 4. 「悪霊追放」読解（マルコ） 5. 「悪霊追放」読解（マタイ） 6. 「悪霊追放」読解（ルカ） 7. 「山上の変貌」読解（マルコ） 8. 「山上の変貌」読解（マタイ） 9. 「山上の変貌」読解（ルカ） 10. 「エルサレム入城」読解（マルコ） 11. 「エルサレム入城」読解（マタイ） 12. 「エルサレム入城」読解（ルカ） 13. 「復活の言及箇所」読解（マルコ） 14. 「復活顕現」読解（マタイ） 15. 「復活顕現」読解（ルカ） 	
<p><準備学習等の指示> 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27版) に基づいた対観福音書 ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd. (各自で購入することを強く勧める。) 	
<p><参考書> ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの参加あるいは試験による評価</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教理史 I	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 古代教理史に関わる項目、概念、人名、著作などを正確に理解し、主要な主題について概説的な理解を得る。</p>	
<p><授業の概要> 古代の教理史を概説する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教理とは何か。ギリシア語圏とラテン語圏での展開 2 教理史の課題 3 教理史から見た使徒教父文書 4 弁証家とロゴス・キリスト論 5 ユスティノスの神学 6 グノーシス主義の教理的な特色とキリスト教の論駁 7 モンタノス主義とマルキオン主義 8 正典と職制理解とキリスト教 9 アレキサンドリア学派—クレメンスとオリゲネス神学の特色 10 アレイオス論争 11 アタナシオス神学の特色 12 ニカイア論争史と信条の成立 13 カパドキア教父の神学 14 カルケドンへの道 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> 教会史 I をよく復習しておくこと。ウォーカー『キリスト教史・古代教会』（ヨルダン社）、ブロックス『古代教会史』（教文館）などを通読しておくこと。</p>	
<p><テキスト> マクグラス『キリスト教思想史入門—歴史神学概説』第一章（キリスト新聞社）を用いる。各自用意すること。</p>	
<p><参考書> その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席を大前提として、小論文によって評価する。</p>	

専門教育科目・歴史神学関係	
教理史Ⅱ	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 中世～宗教改革時代の教理史に関わる事項、人名、著書などを正確に理解し、中世～宗教改革時代の教理史の主要問題を概説的に整理できるようにする。</p>	
<p><授業の概要> 中世と宗教改革時代の教理史を概説する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アウグスティヌスの生涯と著作、ドナティスト論争とペラギウス論争 2 アウグスティヌスの神学Ⅰ サクラメント論、恩恵論 3 アウグスティヌスの神学Ⅱ 歴史の神学 4 中世の聖餐論争 5 アンセルムスの神学 6 トマス・アキナスとボナヴェントゥーラ 7 宗教改革の教理の形成、聖書と伝統の問題 8 ルターの神学 9 カルヴァンの神学Ⅰ「生涯と神学」 10 カルヴァンの神学Ⅱ「神論、キリスト論、聖霊論」 11 宗教改革者の恩恵論 12 宗教改革者のサクラメント論 13 宗教改革者の教会論 14 ディスカッション 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> 教会史ⅡとⅢをよく復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト> マクグラス『キリスト教思想史入門—歴史神学概説』第二～三章（キリスト新聞社）を用いる。各自用意すること。</p>	
<p><参考書> その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席を大前提として、小論文によって評価する。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
教会実習 I	W. ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教会と伝道者の存在や働きを具体的に考えて学ぶこと。</p>	
<p><授業の概要> 神学生として教会の奉仕をしていて、また将来牧会者／説教者になるものにとって重要な対人関係と話し方の訓練になる授業。通年で教会に於ける、また教会によるコミュニケーションを課題にして、講義とロールプレイによる実習からなる。逐語記録で学ぶこともある。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> * 前期は教会の文脈における対人コミュニケーションについての講義である。（第1回から第7回まで） * 前期の前半は教授の講義、後半は受講者のケース・スタディー方式における発表からなる。（第8回から第15回まで）</p> <p>第1回 言語によるコミュニケーションの定義 第2回 言語によるコミュニケーションの構成要因 第3回 対人コミュニケーションにおける魅力 第4回 対人コミュニケーションにおける親しみ 第5回 対人コミュニケーションにおける信頼と指示不信 第6回 対人コミュニケーションにおける防御 第7回 フィードバックとその意義 第8回 ケース・スタディー 第9回 ケース・スタディー 第10回 ケース・スタディー 第11回 ケース・スタディー 第12回 ケース・スタディー 第13回 ケース・スタディー 第14回 ケース・スタディー 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 教師として期待することは、授業の出席を重んじること、ノートをとること、最初から授業に出て、積極的に参加すること。</p>	
<p><テキスト> Pete Ward, <i>Liquid Church</i>. Peabody Massachusetts: Hendrickson Publishers, 2002.</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> （ケース・スタディー方式における）発表、逐語記録、書評で評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
教会実習Ⅱ	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教会と伝道者の存在や働きを具体的に考えて学ぶこと。</p>	
<p><授業の概要> 神学生として教会の奉仕をしていて、また将来牧会者／説教者になるものにとって重要な対人関係と話し方の訓練になる授業。通年で教会に於ける、また教会によるコミュニケーションを課題にして、講義とロールプレイによる実習からなる。逐語記録で学ぶこともある。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 スピーチの定義 第2回 語り手について：言葉づかい 第3回 語り手について：手振り、身振り 第4回 聴衆について：言葉のメッセージ 第5回 聴衆について：体のメッセージ 第6回 スピーチの作り方について 第7回 説教の作り方について 第8回 スピーチの発表 第9回 スピーチの発表 第10回 スピーチの発表 第11回 スピーチの発表 第12回 スピーチの発表 第13回 スピーチの発表 第14回 スピーチの発表 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 教師として期待することは、授業の出席を重んじること、ノートをとること、最初から授業に出て、積極的に参加すること。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> スピーチの発表、逐語記録で評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
牧会心理学 a	W. ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。</p>	
<p><授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、ケース・スタディーで実践的に学ぶ。逐語記録での学びもある。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 牧会カウンセリングの歴史と定義 第2回 宗教と魂 第3回 人格関係の重要性 第4回 傾聴について 第5回 癒し 第6回 認識と洞察 第7回 受容 第8回 結婚と家庭におけるカウンセリング 第9回 ケース・スタディー 第10回 ケース・スタディー 第11回 ケース・スタディー 第12回 ケース・スタディー 第13回 ケース・スタディー 第14回 ケース・スタディー 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Pete Ward. <i>God At The Mall</i>. Peabody Massachusetts: Hendrickson Publishers, 1999.</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席、書評、逐語記録、ケース・スタディー、ディスカッションの参加。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
牧会心理学 b	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<授業の到達目標及びテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。	
<授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、ロールプレーで実践的に学ぶ。	
<履修条件> 牧会心理学 a を終了したこと。	
<授業計画> 第1回 オリエンテーション <div style="text-align: right; margin-right: 20px;"><u>学習テーマ</u></div> 第2回 ロールプレー (一人対一人) 恋愛 第3回 ロールプレー (一人対一人) DV 第4回 ロールプレー (一人対一人) ひきこもり問題 第5回 ロールプレー (一人対一人) 自らを赦すこと 第6回 ロールプレー (一人対一人) 相手を赦すこと 第7回 ロールプレー (一人対一人) 職場でのトラブル 第8回 ロールプレー (一人対一人) 病名告知 第9回 ロールプレー (一人対一人) 経済的悩み 第10回 ロールプレー (一人対一人) 自殺 第11回 ロールプレー (一人対一人) 霊的に乾いている 第12回 ロールプレー (一人対二人) 結婚相談 第13回 ロールプレー (一人対二人) 非行少年[少女]問題 第14回 ロールプレー (一人対二人) 共に暮らしている親との人間関係 第15回 まとめ	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>	
<参考書>	
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席、ロールプレーの参加。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。	

専門教育科目・実践神学関係	
臨床牧会教育 a	W. ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ul style="list-style-type: none"> *オリエンテーション *院長による精神病理の講義。病院見学。 *病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 *面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 *各学生によるケース提出とディスカッションを行う。 <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
臨床牧会教育 b	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。</p>	
<p><授業計画> * 各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 * 面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 * 各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
説教学入門 a	小泉 健
前期・2単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書から聞くこと、聞いたことを語ることを、体験的に学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 学生各自が発表・実演を行い、それを素材として討論を重ねながら学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ギリシア語初級履修済み、もしくは履修中であること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 「説教とは何か」を考え始める 第2回 「わたし」について語る 第3回 「わたし」と「聖書」と「福音」 第4回 「わたし」と「あなた」と「主イエス」 第5回 聖書を読む、朗読する 第6回 聖書朗読と説教 第7回 聖書に聞く、黙想する 第8回 聖書を読む、釈義する 第9回 聖書を語り直す(その1) 対話中心の物語として 第10回 聖書を語り直す(その2) 一人称で 第11回 さらに黙想する(その1) 説教と教義学 第12回 さらに黙想する(その2) 説教と牧会 第13回 説教は何をしているか 第14回 説教を朗読する 第15回 言語以外のものが語る</p> <p>聖書を読んでいる「わたし」はだれか</p>	
<p><準備学習等の指示> 説教学を学ぶ者として、また将来の説教者としての「日々聖書を読む生活」</p>	
<p><テキスト> 聖書を持参すること。その他は、必要に応じて教室でプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> K. バルト、E. トゥルナイゼン『神の言葉の神学の説教学』教団出版局 R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業での発表とレポート(説教)によって評価する。</p>	

専門教育科目・実践神学関係	
説教学入門 b	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ> 説教学の基本的な諸問題を取り上げる。</p>	
<p><授業の概要> 説教学の中心テーマである聖書、説教者、聴衆と説教の関係を取り上げて講義する。</p>	
<p><履修条件> ギリシア語初級履修済み、もしくは履修中であること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 説教と聖書 (その1) 説教における聖書 第2回 説教と聖書 (その2) 旧約聖書の説教 第3回 説教と聖書 (その3) 聖書と教理、そして説教 第4回 説教と説教者 (その1) 説教における「わたし」 第5回 説教と説教者 (その2) 説教と証し 第6回 説教と説教者 (その3) 神からの全権と「神学的能力」 第7回 説教と聴衆 (その1) 説教を聞くこと 第8回 説教と聴衆 (その2) 説教の分析と批評 第9回 説教と聴衆 (その3) 福音と律法の説教 第10回 説教と教会建設 (その1) 結婚式・葬儀での説教 第11回 説教と教会建設 (その2) 御言葉の被造物としての教会 第12回 説教と教会建設 (その3) 教会の「語り」 第13回 日本伝道と説教の課題 第14回 説教の歴史から学ぶ (その1) 古代、中世、宗教改革 第15回 説教の歴史から学ぶ (その2) 近現代、日本の説教</p>	
<p><準備学習等の指示> 説教を学ぶ者として、また将来の説教者としての「日々聖書を読む生活」</p>	
<p><テキスト> 聖書を持参すること。その他は、必要に応じて教室でプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 加藤常昭『説教論』日本基督教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) > レポートによって評価する。</p>	

専門教育科目・専攻間共同	
アジア伝道論演習 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、20世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序説1－伝道(宣教)学とは何か－ 2. 序説2－アジア・キリスト教伝道論－ 3. 序説3－キリスト論的三位一論における諸宗教との対話－ 4. 序説3－韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判 (以下、テキストに従って、5～14まで学生発表と講義) 5. 議論の背景 6. 権威の問題 7. 三位一体の神の宣教 8. 御父の御国を宣べ伝えること－信仰としての宣教－ 9. 御子の生を分かち合うこと－愛としての宣教－ 10. 聖霊の証しを担うこと－希望としての宣教－ 11. 福音と世界の歴史 12. 神の正義のための行動としての説教 13. 教会成長、改宗、文化 14. 諸宗教の中の福音 15. アジア伝道の反省と展望(講義) 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010年。</p>	
<p><参考書></p> <p>1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology - Focused on Christology -, 『神学』72号、東京神学大学神学会、2010年、教文館、143～166頁</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業時の発表、参加度、学期末レポートなどによって評価する。</p> <p>出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教職概論	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件> 一学期登録となる
<p><授業の到達目標及びテーマ> 専門職としての学校教師となるための実践的見識の修得方法、および制度論的課題を正しく把握することを目指す。</p>	
<p><授業の概要> 今日の学校教育の課題の一つは、教師の資質と像をめぐる問題であろう。どういう教育理念と教師像を目指すべきかという基本的な主題を、教師に関する理解の歴史の変遷、文化、見識、教育課題などに分類して考察していく。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師への関心 2. 教職の専門性をめぐって 3. 教師文化の規範 4. 専門家の文化形成 5. 教師の実践的見識 6. 教師の知識と教育学的推論 7. 事例研究と語りの様式 8. 教師教育の課題 9. 生涯学習 10. 専門職化 11. 教員免許更新の教師養成について 12. 神学大学における教師養成理念 13. キリスト教学校での教師像 14. 神学大学における教師養成理念 15. 今後の課題 	
<p><準備学習等の指示> 毎回の授業において、前半は担当講師の講義をし、後半は指定テキストの分担箇所での学生発表と意見交換がなされる。次週に扱うテキスト箇所を各自あらかじめ読んで理解しておき、意見を交し合う。</p>	
<p><テキスト> 講義に用いる諸資料は、および学生発表に用いるテキスト（稲垣忠彦・久富善之、『日本の教師文化』、東京大学出版会、1994年）を、教師が用意する。</p>	
<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 長尾十三二、『教師教育の課題』、玉川大学出版部、1994年 2. 近藤邦夫、『教師と子どもの関係づくり』、東京大学出版会、1995年 3. 佐藤学、『教師というアボリア＝反省的实践』、世織書房、1996年 	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、期末レポートなどによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
心理発達と教育	藤掛 明
前期・2単位	<登録条件>特にない
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教職に関して、心理や発達の諸側面について基本的な理解を得る。</p>	
<p><授業の概要> 学校教育場面をはじめ、様々な人間援助場面で生じる発達心理学的、臨床心理学的な問題を取りあげ、その基本知識および対応スキルを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 特にない</p>	
<p><授業計画> 第1回：人の心を理解するためにはどのような知（臨床の知）が必要か（1） 交互色彩分割法の演習をとおして、相互作用性について学ぶ。 第2回：人の心を理解するためにはどのような知（臨床の知）が必要か（2） はがきコラージュの演習をとおして、多義性について学ぶ。 第3回：人の心を理解するためにはどのような知（臨床の知）が必要か（3） はがきコラージュをグループでわかちあう演習を通して、グループにおける多義性を学ぶ。 第4回：人の心を理解するためにはどのような知（臨床の知）が必要か（4） 人物画の演習をとおして、乳幼児・児童期の発達の諸相について学ぶ。 第5回：人の心を理解するためにはどのような知（臨床の知）が必要か（5） 雨中人物画の演習をとおして、個別性について学ぶ。 第6回：不適応の諸相を学ぶ（1） 事例検討をとおして、思春期危機について学ぶ 第7回：不適応の諸相を学ぶ（2） 事例検討をとおして、青年期危機について学ぶ 第8回：不適応の諸相を学ぶ（3） 事例検討をとおして、依存症について学ぶ 第9回：不適応の諸相を学ぶ（4） 事例検討をとおして、依存症とキリスト教信仰との関係を学ぶ 第10回：不適応の諸相を学ぶ（5） 事例検討をとおして、人格障害について学ぶ 第11回：不適応の諸相を学ぶ（6） 事例検討をとおして、人格障害とキリスト教信仰との関係を学ぶ 第12回：発達の諸相を学ぶ（1） 事例検討をとおして、世代性格を学ぶ 第13回：発達の諸相を学ぶ（2） 事例検討をとおして、教育者自身の中年期危機を学ぶ 第14回：教育者の自己理解（1） 心理テスト演習をとおして、自分の行動スタイルを理解する。 第15回：教育者の自己理解（2） 心理テスト演習をとおして、自分の競争スタイルを理解する。</p>	
<p><準備学習等の指示> なし</p>	
<p><テキスト> 授業中に資料を配付するとともに、授業の中で教員が指示する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況（50%）およびレポート1回（50%）により評価する。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教育基礎論 I	小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 教育の理念について学んだ後、西洋の教育の歴史と思想について、代表的な教育学者を取り上げて学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 教育の理念（その1）教育の課題と目標 第2回 教育の理念（その2）子ども観の変遷と教育 第3回 教育の理念（その3）教育の目的と作用 第4回 教育の理念（その4）教育と宗教 第5回 西洋の教育の歴史と思想（その1）近代以前 第6回 西洋の教育の歴史と思想（その2）ルター 第7回 西洋の教育の歴史と思想（その3）コメニウス 第8回 西洋の教育の歴史と思想（その4）ルソー 第9回 西洋の教育の歴史と思想（その5）ペスタロッチ 第10回 西洋の教育の歴史と思想（その6）フレーベル 第11回 西洋の教育の歴史と思想（その7）ヘルバルト 第12回 西洋の教育の歴史と思想（その8）モンテッソーリ 第13回 西洋の教育の歴史と思想（その9）ジョン・デューイ 第14回 西洋の教育の歴史と思想（その10）シュタイナー 第15回 西洋の教育の歴史と思想（その11）障害者、女性の教育</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 必要に応じて、授業時にプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に筆記試験を行う。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教育基礎論Ⅱ	小泉 健
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育に関する社会的、制度的、経済的事項を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 日本の教育の歴史と思想を概観した後、学校教育をめぐる諸問題について考察する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 日本の教育の歴史と思想（その1）近代以前 第2回 日本の教育の歴史と思想（その2）近代国家の成立と教育 第3回 日本の教育の歴史と思想（その3）近代教授思想 第4回 日本の教育の歴史と思想（その4）大正デモクラシーと新教育 第5回 日本の教育の歴史と思想（その5）戦前・戦中の教育 第6回 日本の教育の歴史と思想（その6）戦後の教育 第7回 日本の教育の歴史と思想（その7）現代の教育 第8回 教育と制度（その1）公教育制度の成立 第9回 教育と制度（その2）学校教育の制度 第10回 教育と制度（その3）教育行政 第11回 教育と制度（その4）教育課程の編成 第12回 教育と制度（その5）教育職員と教員教育の制度 第13回 教育と制度（その6）教育財政の制度 第14回 教育の方法（その1）学習指導と生活指導 第15回 教育の方法（その2）評価技法</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 必要に応じて、授業時にプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に筆記試験を行う。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
宗教科教授法 A a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>日本のキリスト教学校の歴史と現状の全体像を把握できるようになること。それによって宗教科の役割と意義を明確にすること。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>宗教科（聖書科）担任教師となるための準備及び宗教科免許取得のためにこの授業が設けられている。そこで日本におけるキリスト教学校の歴史と現状を学ぶと共に、学校の教育理念の責任ある担い手として、指導的役割を果たす宗教科教師の役割と意義とを学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロテスタント・ミッションの海外伝道 2. 開国前における日本の思想的状況 3. 幕末における学校教育事情 4. 宣教師来日とキリスト教学校の誕生 5. キリスト教学校教育の基礎理念 6. キリスト教学校教育理念の実践 6. 近代化に対するキリスト教の貢献（その1） 7. 近代化に対するキリスト教の貢献（その2） 8. 明治以降の政府の宗教政策とキリスト教 9. キリスト教学校教育の意義 10. キリスト教学校教育の現実 11. 聖書科の授業が目指すもの 12. 聖書科の授業の展開 13. 聖書科のカリキュラム 14. 聖書科授業の総合的反省 15. 聖書科授業の展望。評価 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>授業の中で随時指示する。</p>	
<p><テキスト></p> <p>特に指定はしない。</p>	
<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『聖書科カリキュラムのあり方』、基督教学校教育同盟、1956年。 2. 『キリスト教学校教育の理念と課題』、基督教学校教育同盟、1991年。 	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>期末の定期試験・レポートまたは授業時の発表の結果で評価する。出席2／3を満たすこと。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
宗教科教授法 A b	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>宗教科カリキュラムの作成と授業の具体的な展開力を身につけることをめざす。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>最初の数回、教案の作り方や聖書の使い方について講義をした後、指定テキストと聖書に基づいて学生自らが模擬授業をする。その後、共同討論をしつつ、その模擬授業を評価する。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聖書科授業の歴史的回顧から 2. 聖書科の課題 3. 聖書科授業とカリキュラム 4. 聖書科授業の展開 5. 聖書科のカリキュラム 6. 学生による模擬授業とその共同反省(1) 7. 学生による模擬授業とその共同反省(2) 8. 学生による模擬授業とその共同反省(3) 9. 学生による模擬授業とその共同反省(4) 10. 学生による模擬授業とその共同反省(5) 11. 学生による模擬授業とその共同反省(6) 12. 学生による模擬授業とその共同反省(7) 13. 学生による模擬授業とその共同反省(8) 14. 学生による模擬授業とその共同反省(9) 15. 聖書科授業の総合的考察。評価 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>他の参考書も取り入れつつ、各自担当箇所の指導教案を作成し、授業展開の準備を前もってする。</p>	
<p><テキスト></p> <p>模擬授業に使用する教材を予め紹介する。</p>	
<p><参考書></p> <p>グリッグス、斉藤利郎訳、『教えるってどんなこと』－新しい時代の教授法－聖文舎、1981年。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業中の模擬授業発表の結果と学期末レポートで評価する。出席が2／3以上であること。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
道徳指導法	菱刈 晃夫
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>人間存在にとって道徳がいかなる意味をもつのか。道徳への本質的問いを深める。今日の学校教育における「道徳の時間」に何ができるのかをさぐる。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>現代日本社会における道徳および人間のあり方を捉えた上で、学校教育における「道徳の時間」にできること、できないことを見極め、その具体的指導法について学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 道徳への問い（わたしたちにとっての道徳） 現代社会における道徳のあり方について、その状況を直視する。</p> <p>第2回 道徳と人間 道徳と人間存在との関係について、古今東西の歴史を振り返る。</p> <p>第3回 道徳の語義 道徳という言葉のもつ意味について、深く探る。</p> <p>第4回 道徳性の育み 道徳はモラリティとして教えられるものではなく、育むものであることを理解する。</p> <p>第5回 学校教育のなかの道徳の時間(1) 学校教育における「道徳の時間」の位置づけを、歴史を振り返りつつ確認する。</p> <p>第6回 学校教育のなかの道徳の時間(2) 学習指導要領道徳編について、概略を把握する。</p> <p>第7回 学校教育のなかの道徳の時間(3) 学習指導要領に基づいた道徳教育の実践例を検討する。</p> <p>第8回 学校教育のなかの道徳の時間(4) 学習指導要領に基づいた道徳授業の模擬授業体験をする。</p> <p>第9回 学校教育のなかの道徳の時間(5) 道徳教育の模擬授業実践をさらに展開する。</p> <p>第10回 心の教育 心の教育について、理解を深める。</p> <p>第11回 現代の道徳教育（1） 現代日本における道徳教育の実践例を見る。</p> <p>第12回 現代の道徳教育（2） 世界における道徳教育の実践例を見る。</p> <p>第13回 宗教教育と道徳教育 宗教教育と道徳教育との関係について、理解を深める。</p> <p>第14回 霊性の涵養をめぐる スピリチュアリティの涵養について、指導要領4の視点とのかかわりを考える。</p> <p>第15回 キリスト教と道徳教育 キリスト教と道徳教育とのかかわりと、その実践例について概観する。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>下記テキスト、とくに『講義 教育原論』を受講前に必ず購入して学習に備えること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>菱刈晃夫『教育にできないこと、できること—教育の基礎・歴史・実践・探究（第2版）』（成文堂、2006年）、 宮野安治・山崎洋子・菱刈晃夫『講義 教育原論』（成文堂、2011年）、文部科学省『中学校学習指導要領解説道徳編』（日本文教出版、2008年）、各自で購入すること。とくに『講義 教育原論』は必携。</p>	
<p><参考書></p> <p>菱刈晃夫『近代教育思想の源流——スピリチュアリティと教育——』（成文堂、2005年）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業に2/3以上出席の上、(模擬)授業への参加の度合い、さらにミニレポート提出、およびその内容を鑑みて、総合的に評価する。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
特別活動指導法	山口 博
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 学習指導要領の主旨に沿った中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）の意義と編成を、現状を踏まえつつ全体的に把握したい。その上で特別活動のあり方を諸局面に即して検討し、それらの集団活動を通して、生徒の個性と人間性を育成する道筋を明らかにしていく。</p>	
<p><履修条件> 教職免許状取得希望者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置 2. 教育課程（カリキュラム）の意義 3. 教育課程（カリキュラム）の編成と現状 4. 特別活動の目標 5. ホーム・ルーム活動の意義と特質 6. 学校行事の意義と特質 7. 学校行事の現状分析 8. 学校礼拝の意義と特質 9. 式典について 10. 生徒会活動について 11. クラブ活動について 12. ボランティア活動について 13. 国際交流について 14. 総合的な学習について 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省 各自購入</p>	
<p><参考書> 『キリスト教学校に勤めるということ』—現場の声— キリスト教学校教育同盟 監修</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポート及び試験と授業への参加姿勢によって評価する</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育の方法と情報技術 I	石部 公男
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教職科目のひとつとして中学校および高等学校の授業を適切に進めることができる技術を養う。主にパワーポイントや HTML を使用し教材作成を行うが、教師と学生同士の講評を通じ、技術を高める。</p>	
<p><授業の概要> よりよい教材を作成するための技術の修得を目的とする。主としてパソコンを使用した教材の作成方法の技術的修得。ワード・エクセル・パワーポイントが使用できることを前提とする。</p>	
<p><履修条件> 原則として教職免許取得者を対象。学期ごとに履修可能。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育と宗教教育・・・憲法と教育基本法を見直す 2. 教育に関する法規の概要・・・学校教育法および同施行規則と学習指導要領との関係 3. 授業方法と技術・・・年間指導案と学期ごとの指導案の作成 I 4. 授業実践の原理と方法・・・指導案の作成 II 5. 一斉授業とグループ授業 6. 多様な情報機器を使用した教材作成 7. パソコンを使用した教材作成 その 1 (ワードの使用) 8. パソコンを使用した教材作成 その 2 (パワーポイントの利用) 9. パソコンを使用した教材作成 その 3 10. パソコンを使用した教材作成 その 4 11. パソコンを使用した教材作成 その 5 12. パソコンを使用した教材作成 その 6 13. パソコンを使用した教材作成 その 7 14. パソコンを使用した教材作成 その 8 15. パソコンを使用した教材作成 その 9 	
<p><準備学習等の指示> パソコンの基本的操作と、ワードおよびエクセル、パワーポイントが使用できること。情報基礎を修得していることが望ましい。各自参考図書として挙げている本を読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> 特に指定しない。適宜プリントなどを必要に応じて使用</p>	
<p><参考書> 「情報リテラシー概論」ヴェリタス書房 石部他著 「インターネット時代のプログラミング」 ヴェリタス書房 石部他著</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 日常の授業状況と提出物。最後に作成教材を CD にて提出。平常点 (50%)、提出物 (50%)</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育の方法と情報技術Ⅱ	石部 公男
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育の方法と情報技術Ⅰ、に引き続き、パソコンを使用してより良い教材の作成ができるようにする。プレゼンテーションソフトを使用し、画像のほか、音楽やナレーションなどの音声を取り込んだ教材作成と、HTMLを使用した教材の作成が可能となるようにする。</p>	
<p><授業の概要> 教案の作成、およびテーマに沿った教材の作成を実習形式を取り入れ進める。また教師のみでなく学生相互の批評も取り入れ、より良い教材の作成が可能となるようにする。</p>	
<p><履修条件> 原則として、情報基礎の履修が終わっているか、それと同等のパソコン操作が可能な学生を前提とする。「教育の方法と情報技術Ⅰ」を履修していることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎時間ごとの指導案の作成 2. パワーポイントを使用した教材作成・・・1 3. パワーポイントを使用した教材作成・・・2 4. パワーポイントを使用した教材作成・・・3 5. パワーポイントを使用した教材作成・・・4 6. パワーポイントを使用した教材作成・・・5 7. パワーポイントを使用した教材作成・・・6 8. ネットワークの全体像 9. LANとWAN 10. セキュリティの概要 11. HTMLによる教材作成・・・1 12. HTMLによる教材作成・・・2 13. HTMLによる教材作成・・・3 14. HTMLによる教材作成・・・4 15. HTMLによる教材作成・・・5 と、まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 同「Ⅰ」の授業で参考にした図書をよく読んでおくことが望ましい。</p>	
<p><テキスト> 特に指定しない。</p>	
<p><参考書> 「インターネット時代のプログラミング」石部公男・森秀樹監修、ヴェリタス書房 「HTMLタグ事典」など</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎時間実習的性格があるので、平常点（50%）、毎回の発表時の内容と最後の提出物による評価（50%）。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育的指導と相談の研究 I	町田 健一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 生徒指導の目的・内容・方法について理解を深める</p>	
<p><授業の概要> 中等教育における（広義の）生徒指導の目的・内容・方法について考察し、青年前期の生徒たちの発達上の特質・悩みの実態に即した指導と相談のあり方を具体的な事例をもとに研究する。キリスト教教育の観点に立った生徒指導のあり方もそれぞれの場面で考えたい。</p>	
<p><履修条件> 教職課程履修者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 授業目的と内容／青年前期における発達的特質 第2回 青年前期における生徒指導上の課題 第3回 生徒指導の目的・内容／グループ研究発表準備 第4回 生徒指導の方法／グループ研究発表準備 第5回 グループ研究発表準備 第6回 学生による研究発表とディスカッション 第7回 学生による研究発表とディスカッション 第8回 学生による研究発表とディスカッション 第9回 学習指導 第10回 進路指導 第11回 反社会的・非社会的問題行動に対する指導 （いじめと不登校の問題を中心に） 第12回 性教育：現状と課題 第13回 性教育：具体的な指導内容の在り方 第14回 教師としてのイエス・キリスト 第15回 期末レポートの発表、ディスカッション</p> <p>・この授業は、講義が中心であるが、グループ発表、ディスカッション等を含める。</p>	
<p><準備学習等の指示> 1週90分の授業に対して最低90分の自学（復習・演習等）が期待されている。</p>	
<p><テキスト> 資料を随時配布</p>	
<p><参考書> 必要に応じて授業内で提示（基本的にグループ研究はリサーチなので、あえて指定しない）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> グループ研究・発表（40%）、期末課題（60%） 全授業の1/3以上の欠席者には単位を出さない。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育的指導と相談の研究Ⅱ	町田 健一
後期・2単位	<登録条件> Iを履修済みであること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教育相談の具体的なプロセスを理解し、学校現場で直面する様々な問題に対応できる力を身につける</p>	
<p><授業の概要> 中等教育における（広義の）生徒指導の目的・内容・方法について理解した上で、青年前期の生徒たちの発達上の特質・悩みの実態に即したカウンセリングのあり方・方法・諸注意を、具体的な事例をもとに研究する。キリスト教教育の観点に立ったカウンセリングのあり方もそれぞれの場面で考えたい。この授業は専門のカウンセラーの養成コースではない。教員としての教育相談・カウンセリングの資質の向上をめざす。</p>	
<p><履修条件> 教職課程履修者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 カウンセリングの担い手は？（担任教師とスクールカウンセラー）</p> <p>第2回 学校カウンセリングの意義・必要性／カウンセラーとして期待される資質</p> <p>第3回 様々な問題への対応（1）問題行動・不適応行動</p> <p>第4回 様々な問題への対応（2）環境整備（協力体制・連携を含む）／問題分析</p> <p>第5回 カウンセリングの基本的方法と留意点（1）</p> <p>第6回 カウンセリングの基本的方法と留意点（2）</p> <p>第7回 促進段階：共感性、尊敬的態度、おもいやり</p> <p>第8回 移行段階：具体性、純粹性、自己開示</p> <p>第9回 行動段階：直面化、即時性</p> <p>第10回 具体的事例での演習</p> <p>第11回 具体的事例での演習</p> <p>第12回 具体的事例での演習</p> <p>第13回 具体的事例での演習</p> <p>第14回 学校カウンセリングの課題（期末レポート提出）</p> <p>第15回 演習に関する論評とまとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 1週90分の授業に対して最低90分の自学（復習・演習等）が期待されている。</p>	
<p><テキスト> 資料を随時配布</p>	
<p><参考書> 必要に応じて授業内で提示</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> グループ研究・発表（40%）、期末課題（60%） 全授業の1/3以上の欠席者には単位を出さない。</p>	

教職課程・教職に関する科目	
教職演習	小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教職課程全体を振り返り、不足している知識、技能を補い、教員として必要な資質能力を養う。</p>	
<p><授業の概要> 役割演技、事例研究、模擬授業などを行いながら、教員としての資質能力を実践的に確認する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 教員の役割 第2回 教師としての話し方・聞き方 第3回 聖書科の授業（1）知識の伝達、プリントの作成 第4回 聖書科の授業（2）物語、朗読、劇 第5回 聖書科の授業（3）絵画、音楽の利用 第6回 聖書科の授業（4）聖書学と聖書科 第7回 聖書科の授業（5）授業の目的、評価 第8回 学級経営 第9回 集団をまとめる 第10回 生徒理解 第11回 関係をつくる、問題への対応 第12回 保護者会、保護者への伝道 第13回 学校礼拝の形成 第14回 学校礼拝での説教のあり方 第15回 学校礼拝での説教の実際</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 必要に応じて、授業時にプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 演習における発表と参加によって評価する。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育実習 I	朴 憲郁 小泉 健
通年・5単位	<登録条件> 通年で登録のこと
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書科授業を中心とする教師としての実践的教授力、指導力を養う。</p>	
<p><授業の概要> 中学校の教員免許状を取得するための最終科目で、キリスト教学校での教育実地研究を行う。</p>	
<p><履修条件> 実習年度の前年度の予備登録時に教育基礎論 I/II と宗教科教授法と「教科に関する科目」中、所定の科目を履修済みの人だけが登録・履修できる。また、教育実習の実施に伴って、本大学で行う「事前・事後指導」の受講（4月と11月予定）を欠席すると、単位は取得できない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習年度に、実習校で4週間（実質3週間）、授業を中心とした教育実習を受ける。 2. 実習年度に、実習期間をはさんで、その前後に各6時間に及ぶ「事前指導」と「事後指導」を行う。 	
<p><準備学習等の指示> 事前と事後に、それぞれ掲示板にて指示を出す。</p>	
<p><テキスト> 特に指定しない。随時、プリントを配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 教育実習成績報告書と「事前・事後指導」出席等を総合的に評価する。</p>	

教職課程・教職に関する専門科目	
教育実習Ⅱ	朴 憲郁 小泉 健
通年・3単位	<登録条件> 通年で登録のこと
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書科授業を中心とする教師としての実践的教授力、指導力を養う。</p>	
<p><授業の概要> 高等学校の教員免許状を取得するための最終科目で、キリスト教学校での教育実地研究を行う。</p>	
<p><履修条件> 実習年度の前年度の予備登録時に教育基礎論Ⅰ/Ⅱと宗教科教授法と「教科に関する科目」中、所定の科目を履修済みの人だけが登録・履修できる。また、教育実習の実施に伴って、本大学で行う「事前・事後指導」の受講（4月と11月予定）を欠席すると、単位は取得できない。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習年度に、実習校で4週間（実質3週間）、授業を中心とした教育実習を受ける。 2. 実習年度に、実習期間をはさんで、その前後に各6時間に及ぶ「事前指導」と「事後指導」を行う。 	
<p><準備学習等の指示> 事前と事後に、それぞれ掲示板にて指示を出す。</p>	
<p><テキスト> 特に指定しない。随時、プリントを配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 教育実習成績報告書と「事前・事後指導」出席等を総合的に評価する。</p>	